

令和4年度「国語に関する世論調査」の結果の概要

調査目的・方法等

調査主体：文化庁国語課（業務委託先：一般社団法人中央調査社）

調査目的：現在の社会状況の変化に伴う日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する。

調査時期：令和5年 1月16日～3月15日

調査対象：全国16歳以上の個人

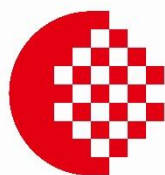
調査対象総数 6,000 人

有効回答数（率） 3,579 人 （ 59.7% ）

調査方法：郵送法

※ 令和2年度調査以降、調査方法を令和元年度調査以前の面接聴取法から郵送法に変更した。

※ 令和4年度調査は、令和元年度以前の調査（調査員による面接聴取法）とは調査方法が異なるため、令和元年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要である。



文化庁

備考

- ・ 百分比は、各質問の回答者数を 100%として算出し、小数第 2 位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が 100%にならない場合がある。内訳とその小計においても同様である。
- ・ 百分比の差を示す「ポイント」については、小数第 1 位を四捨五入して示した。
- ・ 一つの質問に二つ以上の回答をすることができるもの（調査票で「○は幾つでも」、「○は三つまで」等と二つ以上の回答個数が可能である質問）では、回答率の合計が 100%を超えることがある。
- ・ 「付問」は、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。
- ・ 図表等に「n=1,000」等と示されているのは、その問いの回答者数の総数である。特に示されていない場合は今回調査全体の回答者数（3,579）となる。
- ・ 図表等で回答の割合を「-」と表示しているのは、回答者がいなかった場合である。「0.0」と表示してあるのは、回答者が 1 人以上いるが、百分比の小数第 2 位を四捨五入した結果、「0.0」となったものである。
- ・ 各質問の冒頭で、(P.10) 等と示されたページ数は、本調査の報告書において、該当する質問が記載されているページである。

目 次

I 国語とコミュニケーションに関する意識

<問1>	言葉の使い方に対する意識	1
<問1付問>	どのように気を使っているか	3
<問2>	見聞きした言葉が間違いや勘違いだと思ったときの好ましい反応	6
<問3>	言葉の意味や使い方などが分からないとき、調べたり確かめたりするか	8
<問3付問>	どのように調べたり確かめたりしているか	9
<問4>	生活に必要な情報の入手先	11
<問5>	言葉遣いに大きな影響を与えると思う情報媒体	14
<問6>	日本語を大切にしているか	17
<問6付問1>	日本語を大切にしている理由	19

II ローマ字表記に関する意識

<問7>	アルファベットの略語の意味が分からず困ることがあるか	21
<問8>	アルファベットの略語が用いられている状況を好ましいと感じるか	22
<問8付問1>	好ましいと感じる理由	23
<問8付問2>	好ましくないと感じる理由	25
<問9>	日本語をローマ字で書き表すことがあるか	27
<問9付問>	どのくらいの長さまで日本語をローマ字で書き表すことがあるか	28
<問10>	ローマ字表記を知っているとどのような利点があると思うか	29
<問11>	学びやすいと思うローマ字表記	31
<問12>	ローマ字の長音符号の代わりに使いやすいと思う表示	36

III 言葉遣いに対する印象や慣用句等の理解

<問13>	使うことがある言葉か（「推し」「盛る」等を使うことがあるか）	38
<問14>	気になる言葉か（「推し」「盛る」等が気になるか）	40
<問15>	「涼しい顔をする」「 ^{じくじ} 忸怩たる思い」等の言葉は、どちらの意味だと思うか	42

I 国語に対する認識

* 報告書におけるページ数

<問1> 言葉の使い方に対する意識 (* p.3)

— 「気を使っている(計)」が約8割 —

[問1 : 質問]

あなたは、ふだん、あなた自身の言葉の使い方について、どの程度気を使っていますか。(一つ回答)

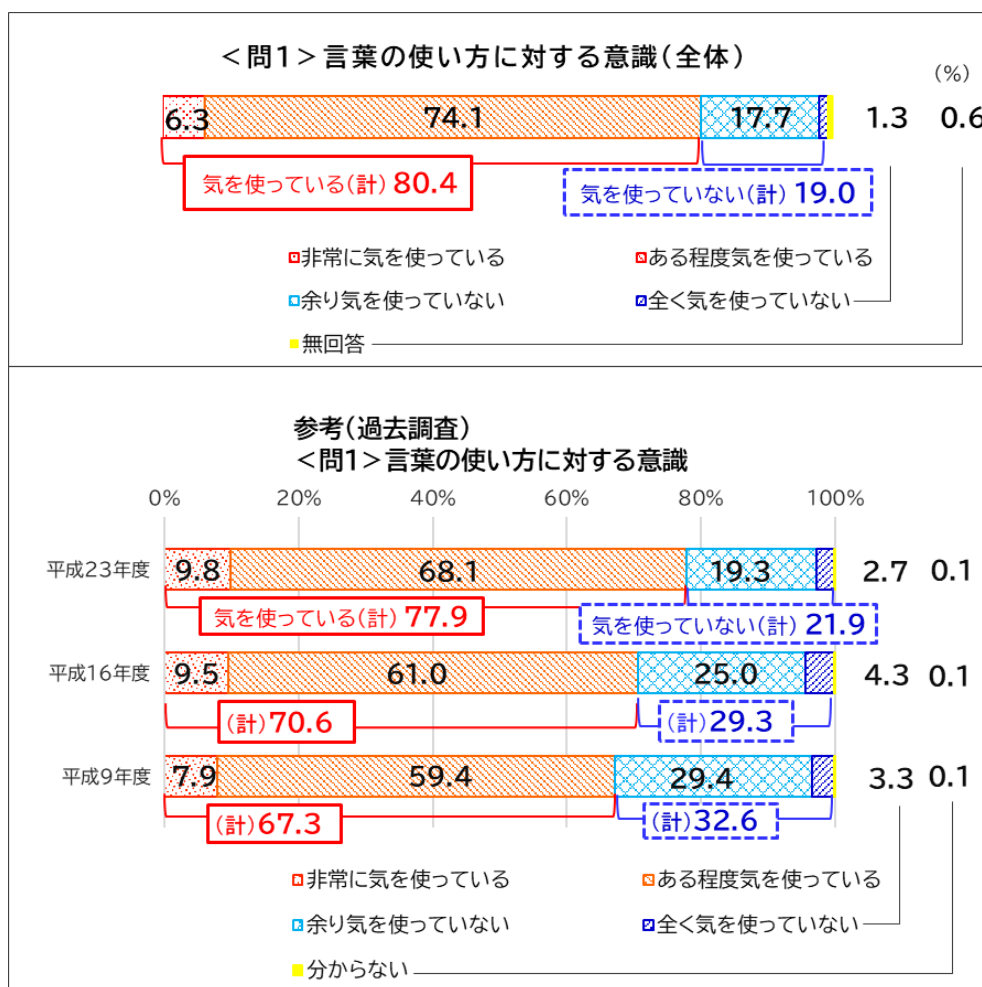
[問1 : 全体の結果、(参考)過去の調査結果]

結果は次のグラフのとおり。

「非常に気を使っている」を選択した人の割合が6.3%、「ある程度気を使っている」が74.1%で、この二つを合わせた「気を使っている(計)」は80.4%となっている。一方、「全く気を使っていない」は1.3%、「余り気を使っていない」は17.7%で、この二つを合わせた「気を使っていない(計)」は19.0%となっている。

また、令和2年度から調査方法が変わったため、今回の調査結果との比較には注意が必要であるが、過去の調査結果(平成9、16、23年度)を参考値として下のグラフに示す。

過去の調査結果においては、「気を使っている(計)」の割合が増加傾向にあった。

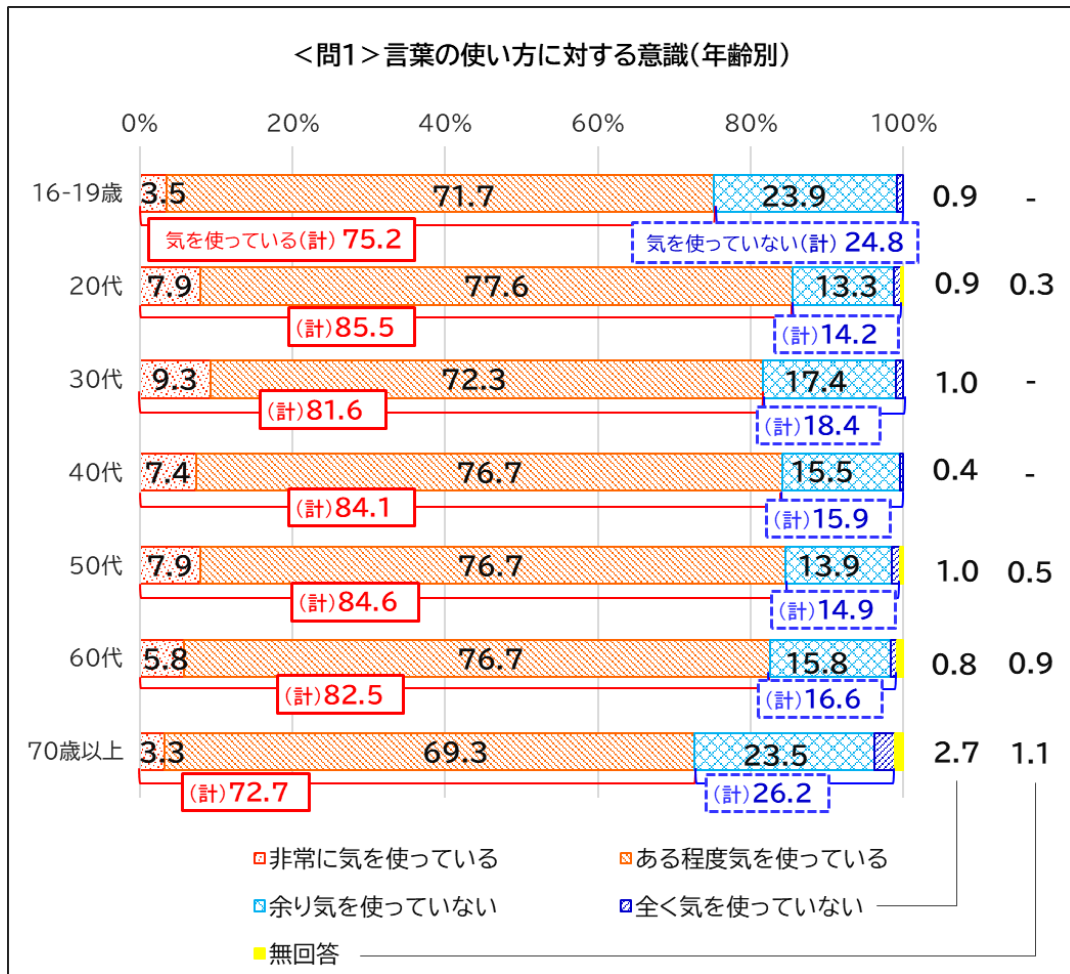


* 調査方法の変更のため、令和元年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。

〔 問1：年齢別の結果 〕

年齢別の結果は、次のグラフのとおり。

「気を使っている（計）」の割合は、16～19歳と70歳以上で7割台と、ほかの年齢層より低くなっている。



<問1付問> どのように気を使っているか (* p.5)

— 「改まった場で、ふさわしい言葉遣いをする」が 8割台と最も高い—

〔 問1付問 : 質問 〕

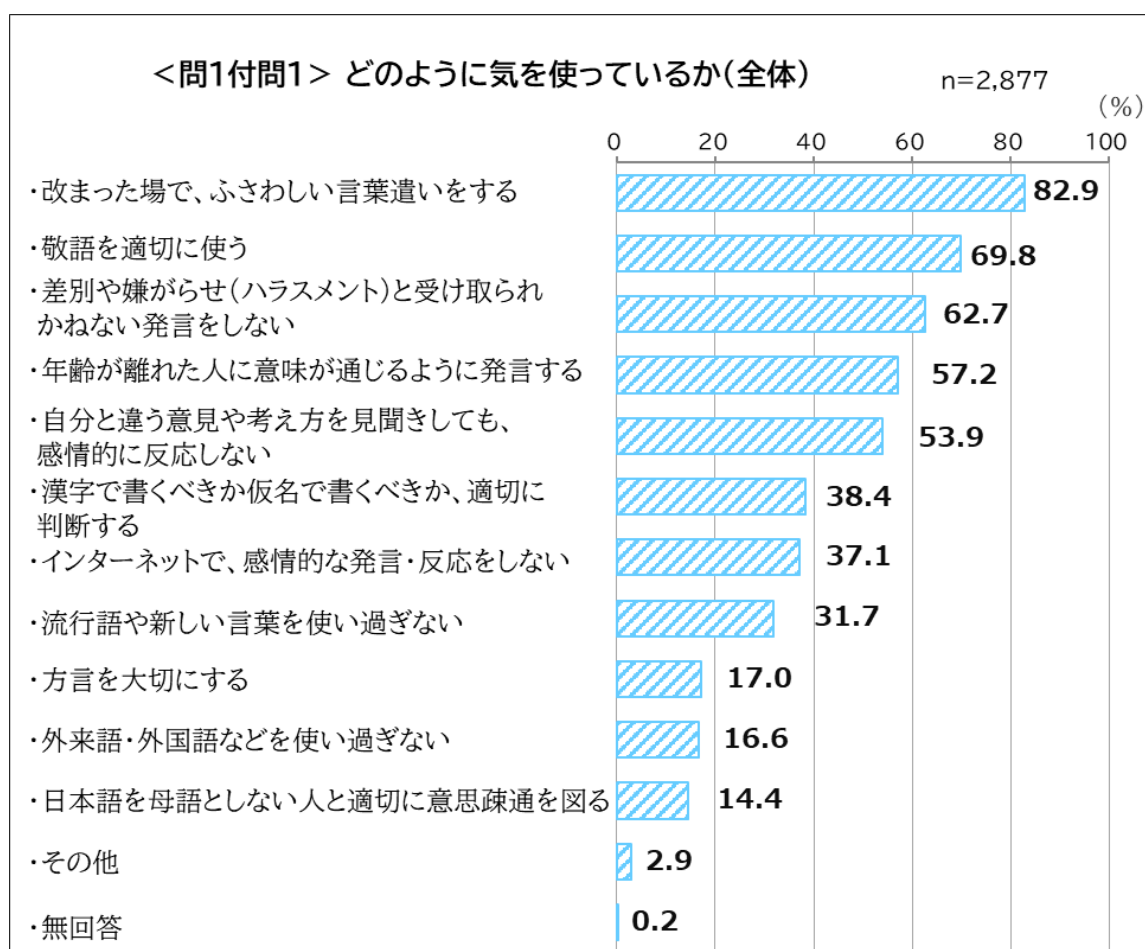
(問1で「非常に気を使っている」、「ある程度気を使っている」と答えた人(全体の80.4%)に対して)

ふだん、どのように気を使っていますか。(幾つでも回答)

〔 問1付問 : 全体の結果 〕

結果は次のグラフのとおり。

「改まった場で、ふさわしい言葉遣いをする」を選択した人の割合が他に比べて高く、82.9%となっている。次いで「敬語を適切に使う」(69.8%)、「差別や嫌がらせ(ハラスメント)と受け取られかねない発言をしない」(62.7%)が6割台、「年齢が離れた人に意味が通じるように発言する」(57.2%)、「自分と違う意見や考え方を見聞きしても、感情的に反応しない」(53.9%)が5割台となっている。

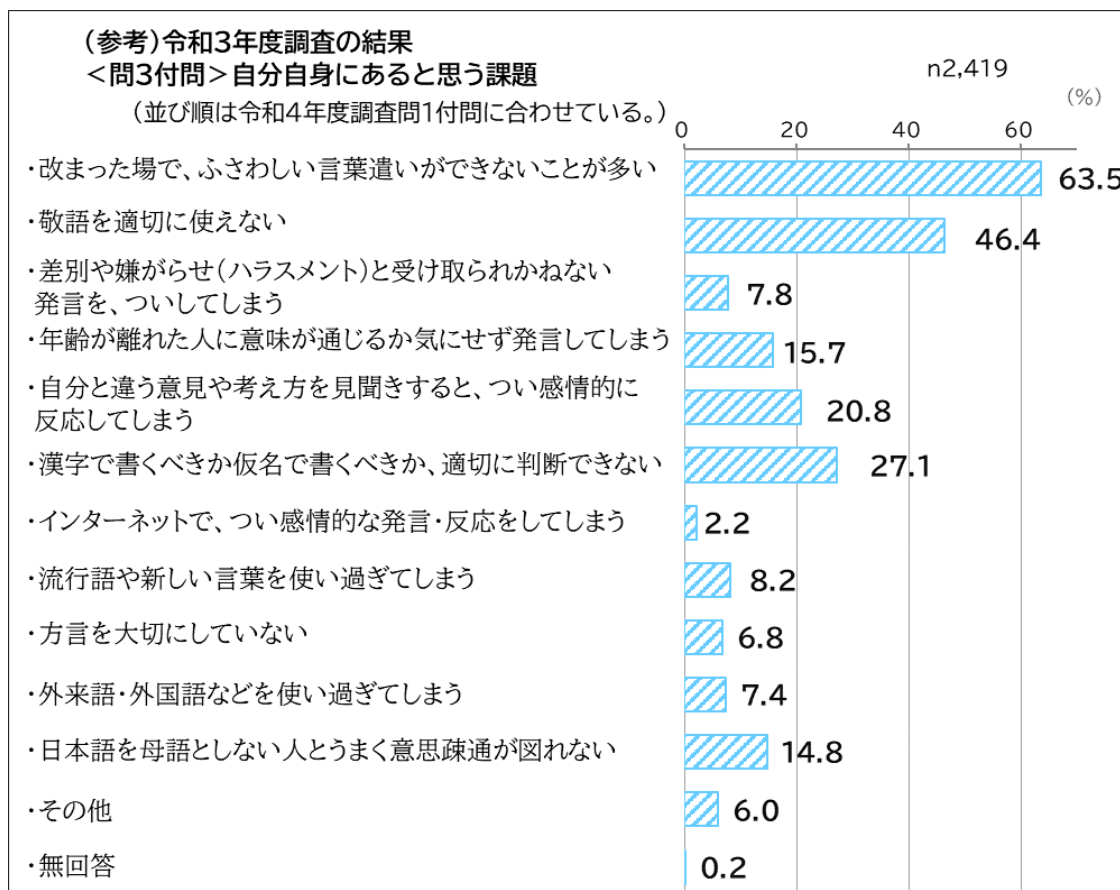


〔 問1付問：令和3年度調査の間3付問の比較 〕

選択肢の内容が似ている問1付問と、令和3年度調査問3付問との結果について比較する。

令和3年度調査問3で、言葉や言葉の使い方について、自分自身に、課題が「あると思う」と回答した人（67.6%）に対して、問3付問で、どのような課題があるか尋ねた。結果は下のグラフのとおり。

令和4年度調査問1付問で「改まった場で、ふさわしい言葉遣いをする」（82.9%）、「敬語を適切に使う」（69.8%）と回答した人の割合が1番目と2番目に多かったが、それに対応する3年度調査問3付問の回答「改まった場で、ふさわしい言葉遣いができないことが多い」（63.5%）、「敬語を適切に使えない」（46.4%）も、1番目と2番目に多くなっている。



〔 問1 付問：年齢別の結果 〕

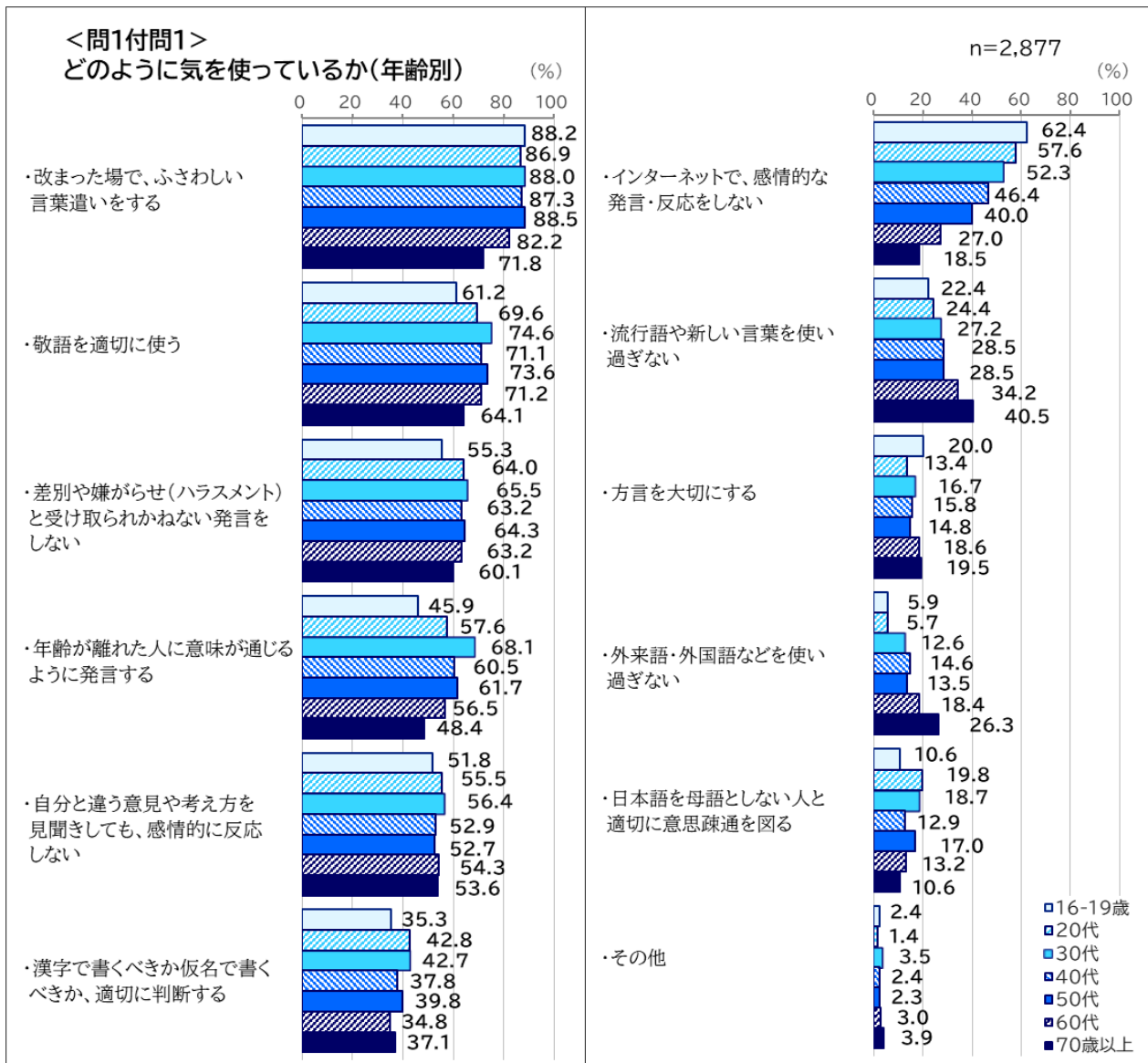
年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「改まった場で、ふさわしい言葉遣いをする」は、70歳以上が71.8%と、ほかの年齢層より低くなっている。

「敬語を適切に使う」、「差別や嫌がらせ（ハラスメント）と受け取られかねない発言をしない」、「年齢が離れた人に意味が通じるように発言する」は、16～19歳と70歳以上の割合がほかの年齢層より低くなっている。

「インターネットで、感情的な発言・反応をしない」は年齢が上がるに従って、割合が低くなっている。

一方、「流行語や新しい言葉を使い過ぎない」、「外来語・外国語などを使い過ぎない」は、年齢が上がるに従って割合が高くなる傾向にある。



<問2> 見聞きした言葉が間違いや勘違いだと思ったときの好ましい反応 (* p.8)

— 「本当に間違いや勘違いなのか調べる」が5割台半ばと最も高い —

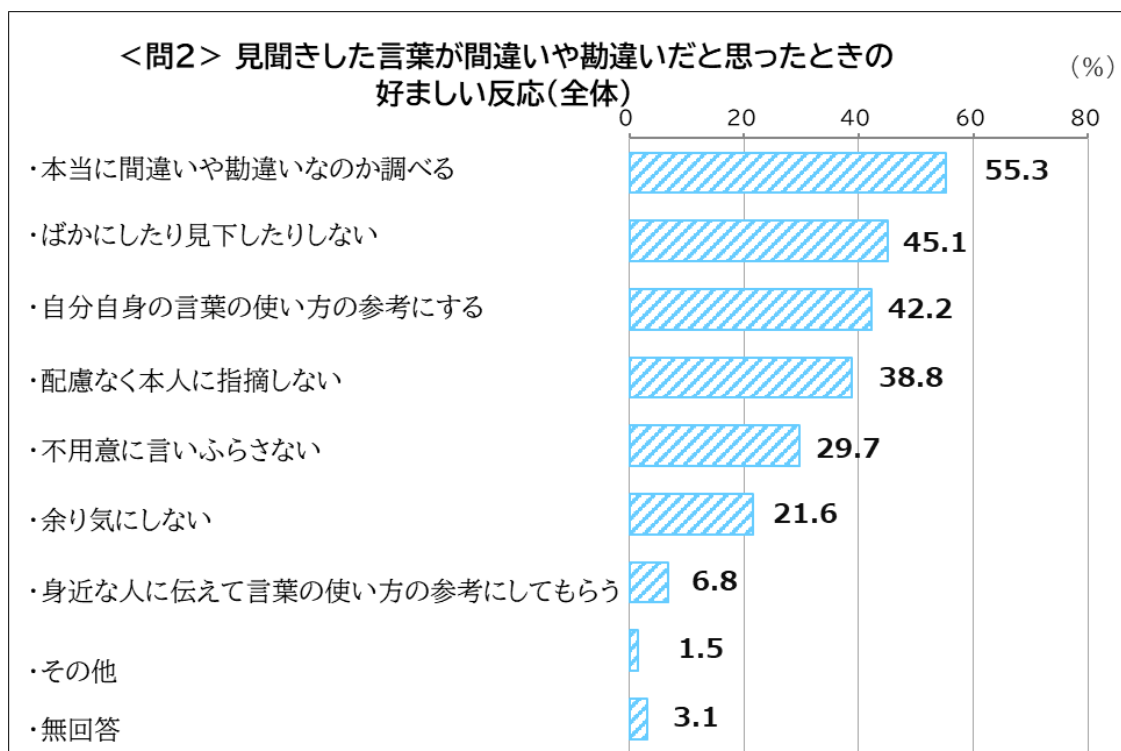
〔問2：質問〕

見聞きした言葉の使い方について、間違いや勘違いだと思ったら、どのようにするのが好ましいと思いますか。 (三つまで回答)

〔問2：全体の結果〕

結果は、次のグラフのとおり。

「本当に間違いや勘違いなのか調べる」を選択した人の割合が最も高く、55.3%となっている。次いで「ばかにしたり見下したりしない」(45.1%)、「自分自身の言葉の使い方の参考にする」(42.2%)が4割台となっている。



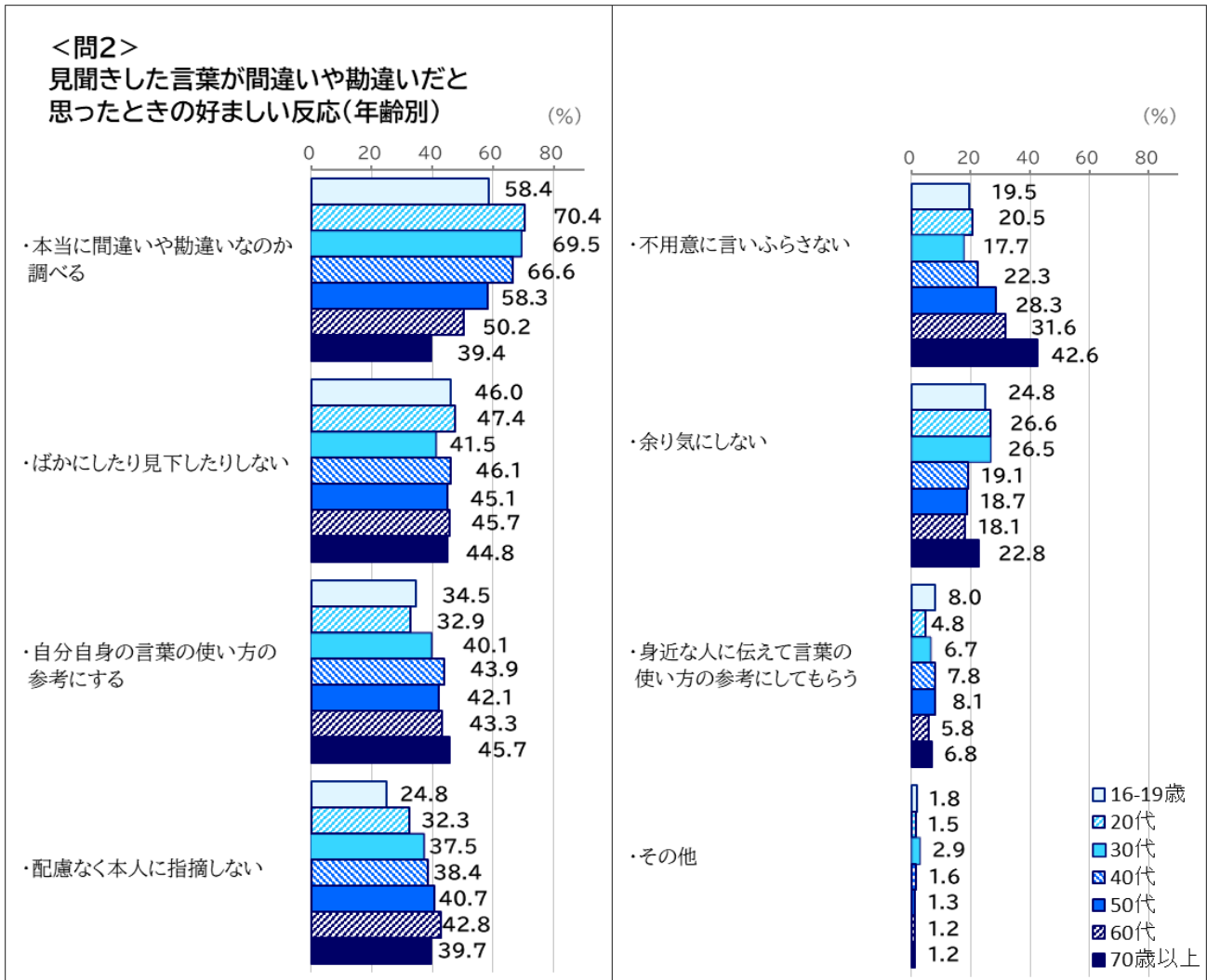
〔 問2：年齢別の結果 〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「本当に間違いや勘違いなのか調べる」の割合は、16～19歳を除き、年齢が上がるに従って割合が低くなっている。

「自分自身の言葉の使い方の参考にする」「配慮なく本人に指摘しない」は、20代以下が2割台から3割台前半と、ほかの年齢層より低くなっている。

「不用意に言いふらさない」は、70歳以上が42.6%と、ほかの年齢層より高くなっている。



<問3> 言葉の意味や使い方などが分からないとき、調べたり確かめたりするか

(* p.10)

— 「する(計)」が8割を超えている —

〔問3：質問〕

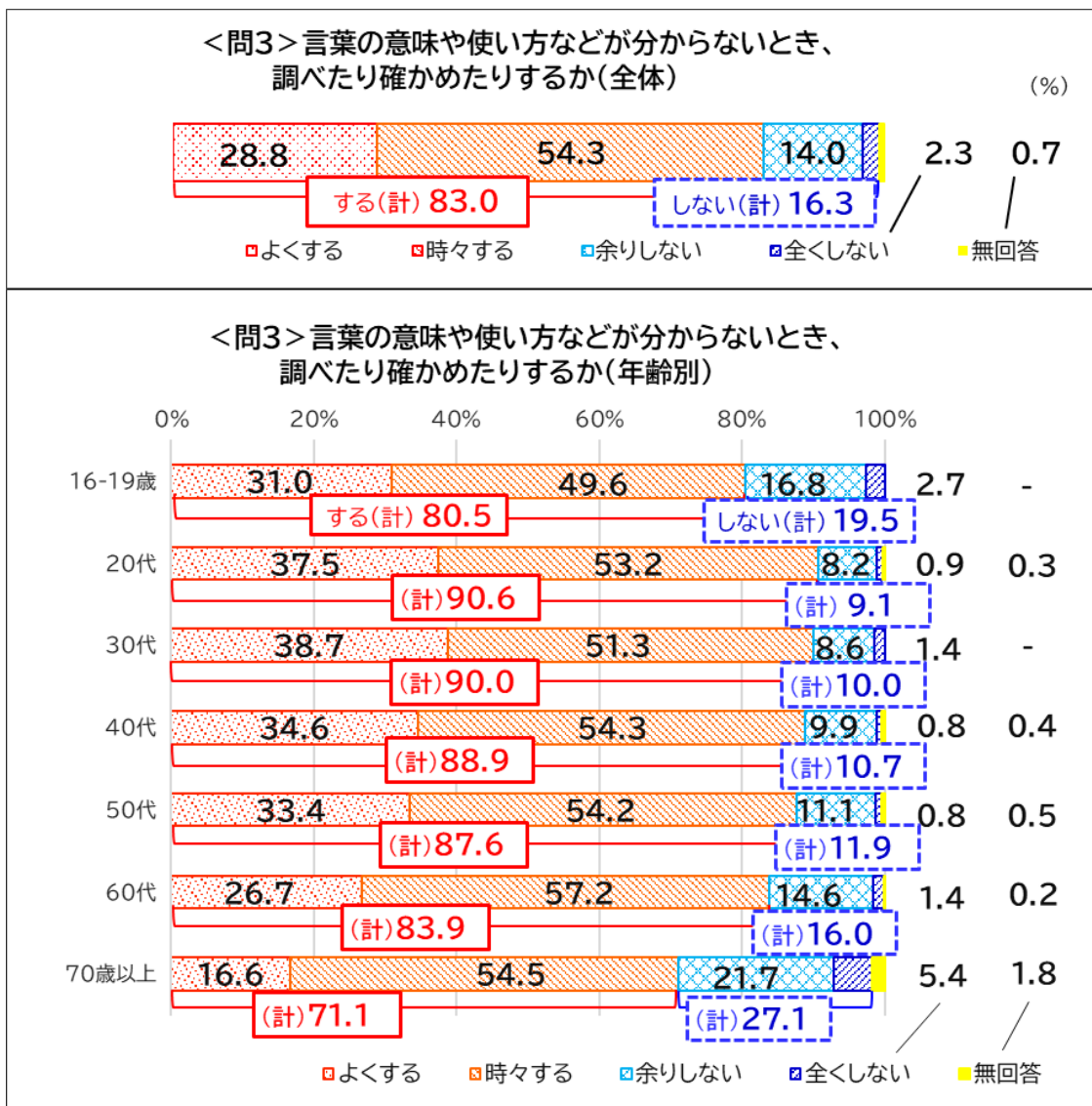
あなたは、言葉遣いに迷ったり、言葉の意味や使い方が分からなかったりしたときに、その言葉を調べたり確かめたりしますか。それとも、しませんか。(一つ回答)

〔問3：全体の結果・年齢別の結果〕

結果は、次のグラフのとおり。

「よくする」を選択した人の割合が28.8%、「時々する」が54.3%で、この二つを合わせた「する(計)」は83.0%となっている。一方、「全くしない」は2.3%、「余りしない」は14.0%で、この二つを合わせた「しない(計)」は16.3%となっている。

また、年齢別に見ると、「しない(計)」は、70歳以上が71.1%と、ほかの年齢層より低くなっている。



<問3付問> どのように調べたり確かめたりしているか (* p.13)

— 「インターネットの検索サイトなどで検索する」が6割台と最も高い —

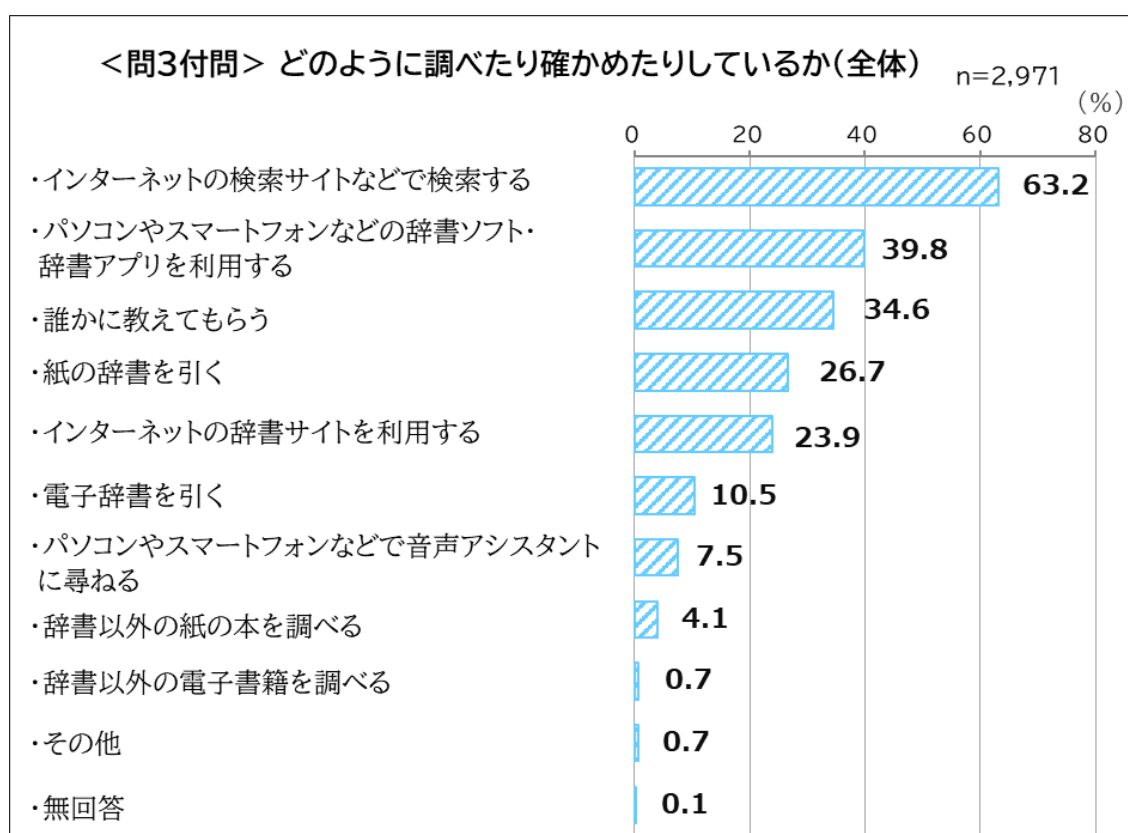
〔問3付問：質問〕

（問3で「よくする」「時々する」と答えた人（全体の83.0%）に対して）
ふだん、どのように調べたり確かめたりしていますか。（幾つでも回答）

〔問3付問：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。

「インターネットの検索サイトなどで検索する」を選択した人の割合が他に比べて高く、63.2%となっている。次いで「パソコンやスマートフォンなどの辞書ソフト・辞書アプリを利用する」（39.8%）、「誰かに教えてもらう」（34.6%）が3割台、「紙の辞書を引く」（26.7%）、「インターネットの辞書サイトを利用する」（23.9%）が2割台となっている。



〔 問3付問：年齢別の結果 〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

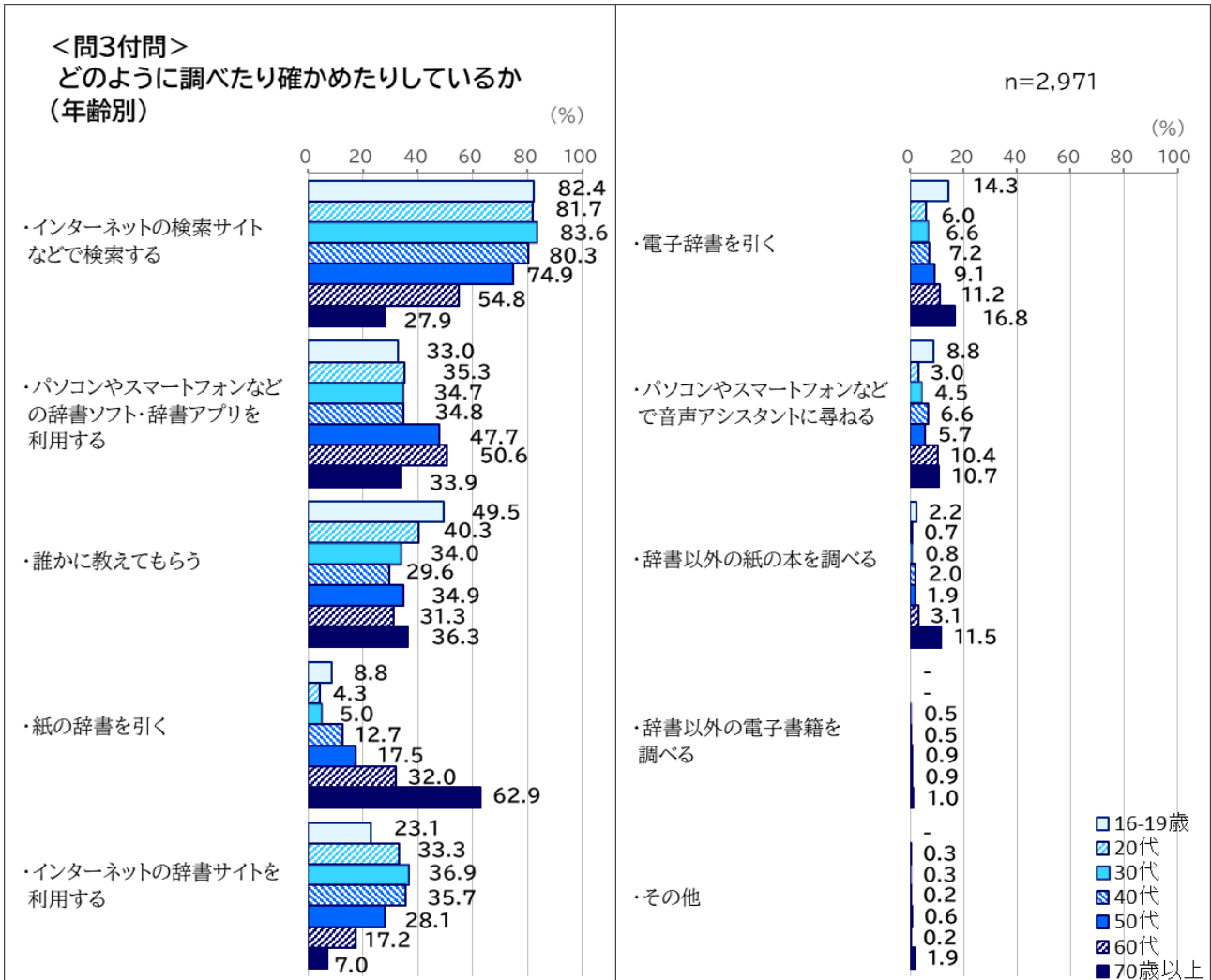
「インターネットの検索サイトなどで検索する」は、50代以下が7割以上となっている一方、60代が54.8%、70歳以上が27.9%となっている。

「パソコンやスマートフォンなどの辞書ソフト・辞書アプリを利用する」は、50代、60代が4割台後半から約5割と、ほかの年齢層より高くなっている。

「誰かに教えてもらう」は、20代以下が4割台と、ほかの年齢層より高くなっている。

「紙の辞書を引く」は、70歳以上が62.9%と、ほかの年齢層より30ポイント以上高くなっている。

「インターネットの辞書サイトを利用する」は、20代から40代が3割台と、ほかの年齢層より高くなっている。



<問4> 生活に必要な情報の入手先 (* p.15)

— 「テレビ」、「スマートフォン・携帯電話」が7割台と他より高い —

[問4：質問]

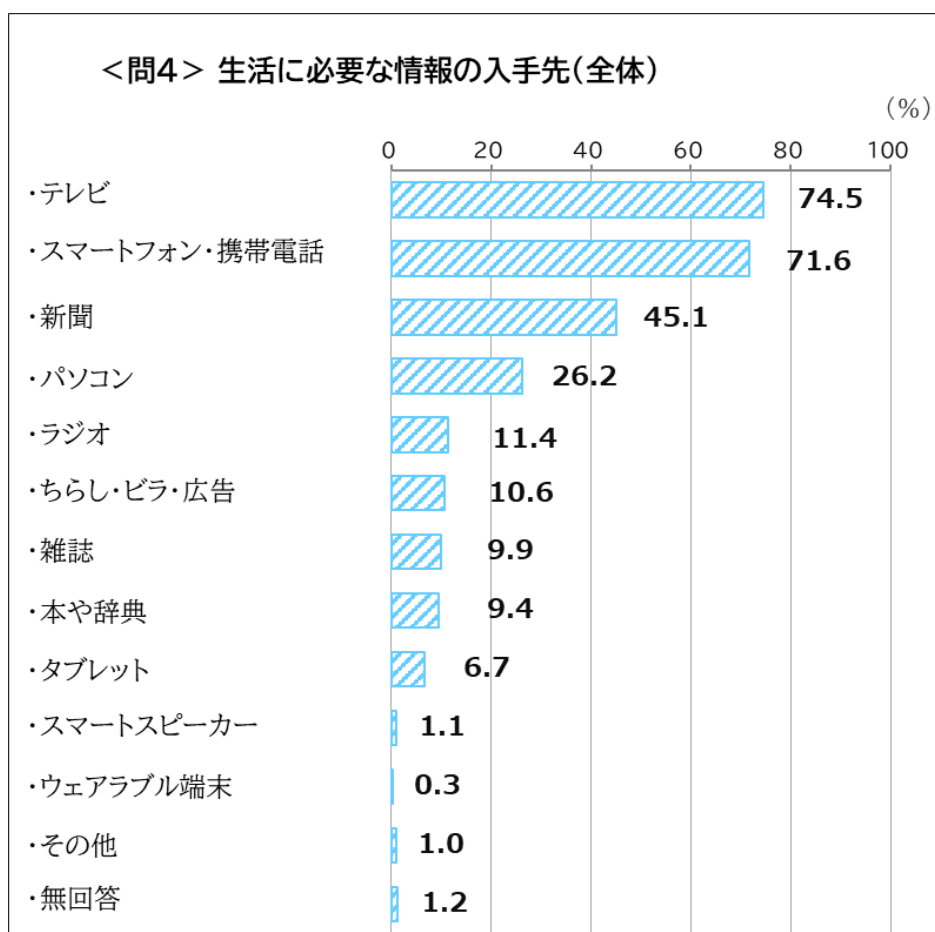
あなたは、毎日の生活に必要な情報を何から得ていますか。 (三つまで回答)

※ 「新聞」「雑誌」「本や辞書」は、その電子版も含みます。

[問4：全体の結果]

結果は、次のグラフのとおり。

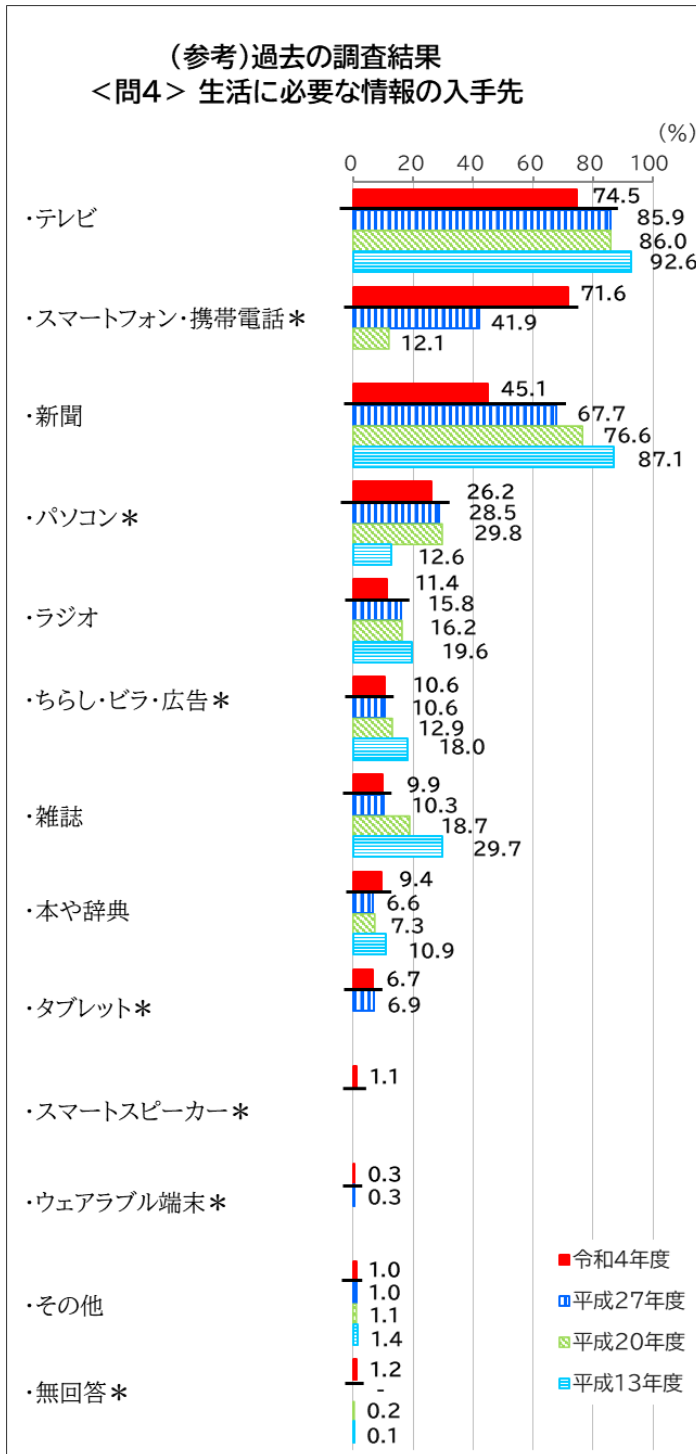
「テレビ」(74.5%)、「スマートフォン・携帯電話」(71.6%)を選択した人の割合が他に比べて高く、7割台となっている。次いで「新聞」が45.1%、「パソコン」が26.2%となっている。



〔 問4：(参考)過去の調査結果 〕

令和2年度から調査方法が変わったため、今回の調査結果との比較には注意が必要であるが、過去の調査結果（平成13,20,27年度）を参考値として次のグラフに示す。

過去の調査結果においては、令和4年度調査の「スマートフォン・携帯電話」に対応する「携帯電話（スマートフォン含む）」の割合が増加傾向にあった一方、「テレビ」「新聞」「ちらし・ビラ・広告（過去調査では「ちらし・ビラ」）」「雑誌」の割合が減少傾向にあった。



- * 調査方法の変更のため、令和元年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。
- * 「スマートフォン・携帯電話」は、平成27年度調査では「携帯電話（スマートフォン含む）」、平成20年度調査では「携帯電話」、平成13年度調査では選択肢になかった。
- * 「パソコン」は、平成20年度調査では「パソコン（インターネット）」、平成13年度調査では「インターネット」
- * 「ちらし・ビラ・広告」は、平成13,20,27年度調査では、「ちらし・ビラ」
- * 「タブレット」は、平成27年度調査では「タブレット端末」、平成13,20年度調査では選択肢になかった。
- * 「スマートスピーカー」は、平成13,20,27年度調査では、選択肢になかった。
- * 「ウェアラブル端末」は、平成13,20年度調査では、選択肢になかった。
- * 「無回答」は令和4年度調査のみ。平成13,20,27年度調査では、「分からない」の割合を示している。

〔 問4：年齢別の結果 〕

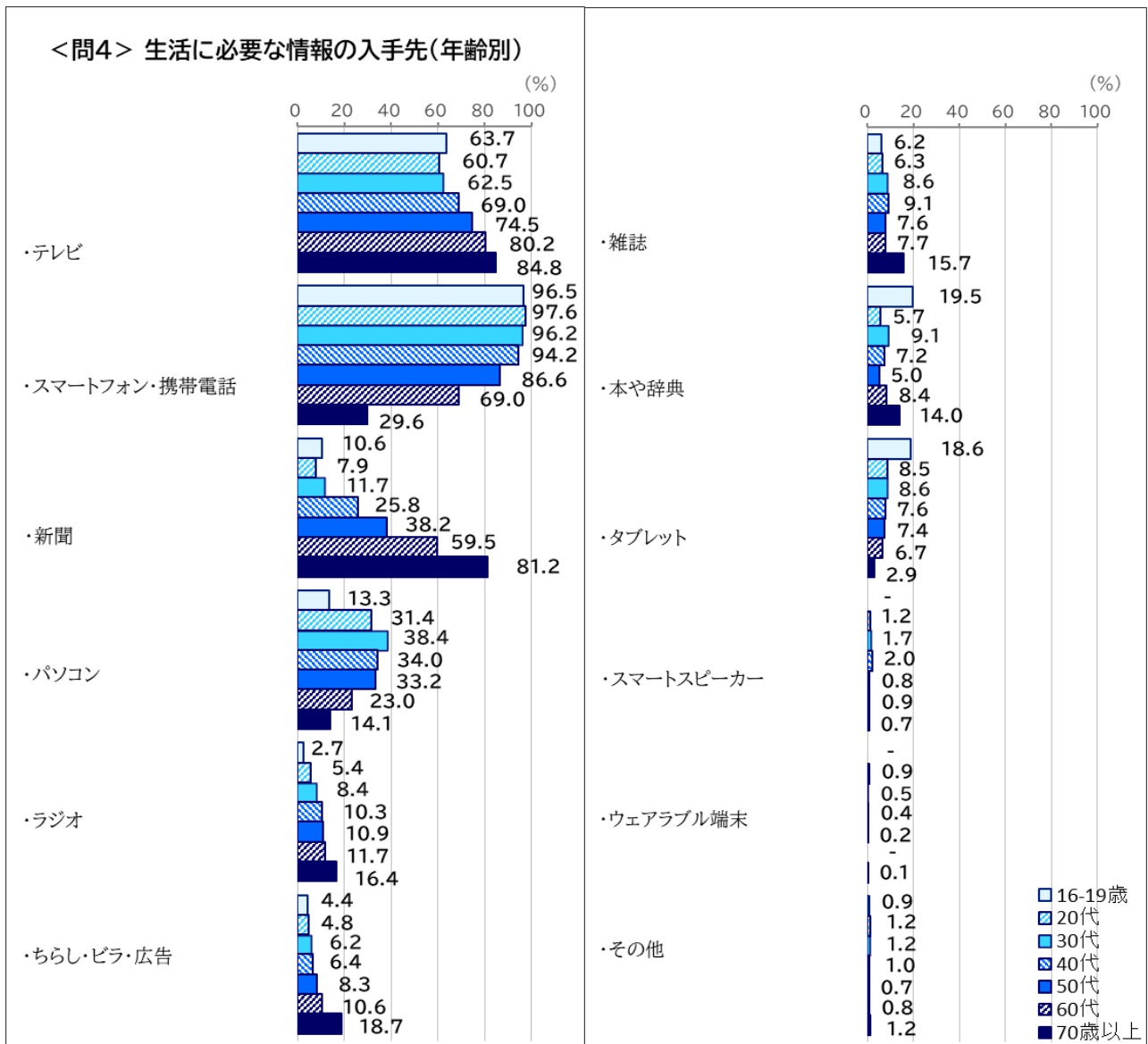
年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「テレビ」「新聞」「ラジオ」「ちらし・ビラ・広告」は、おおむね年齢が上がるに従って、割合が高くなる傾向にある。特に「新聞」は、年齢によって割合の差が大きく、20代（7.9%）と比べ、70歳以上（81.2%）が70ポイント以上高くなっている。

「スマートフォン・携帯電話」は50代以下で8割以上となっている一方、60代が69.0%、70歳以上が29.6%となっている。

「パソコン」は、16～19歳と70歳以上が1割台と、ほかの年齢層より低くなっている。

「本や辞典」「タブレット」は、16～19歳が1割台後半と、ほかの年齢層より高くなっている。



<問5> 言葉遣いに大きな影響を与えると思う情報媒体 (* p.18)

— 「テレビ」が約9割と最も高い —

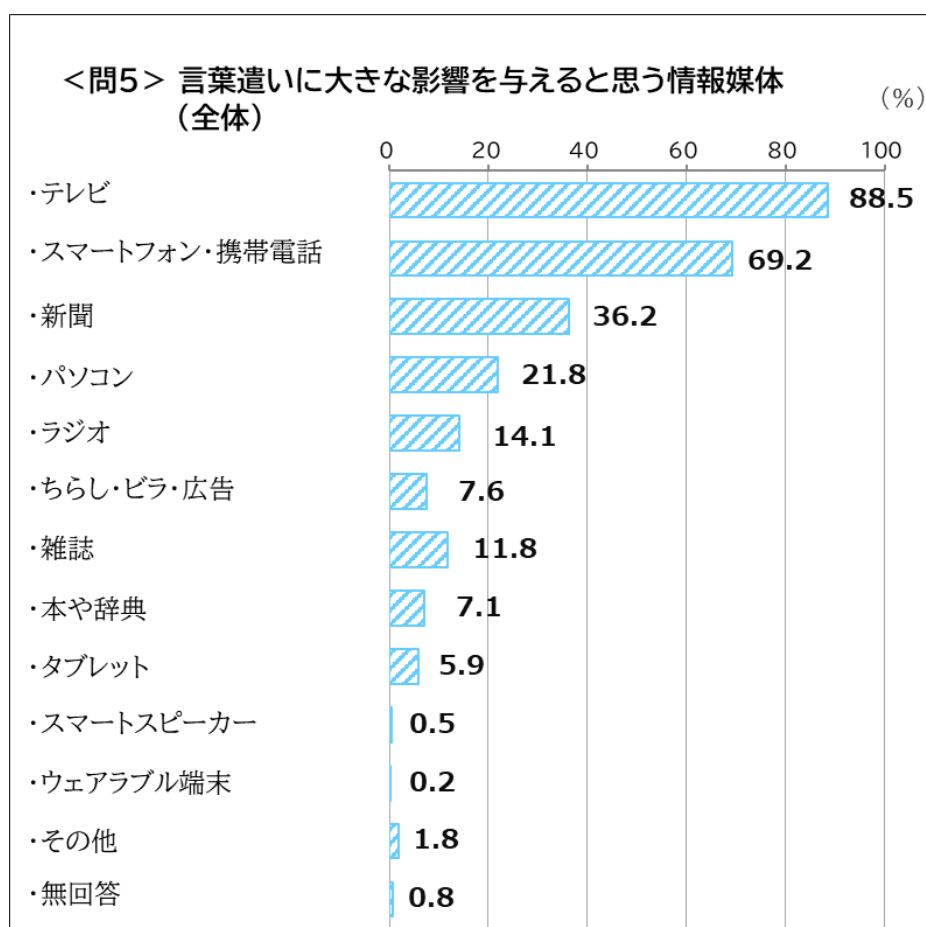
〔問5：質問〕

あなたは、情報の伝達に使用されるもののうち、言葉や言葉の使い方に大きな影響を与えるのは何だと思いますか。（三つまで回答）

〔問5：全体の結果〕

結果は次のグラフの おり。（並び順は問4に合わせている。）

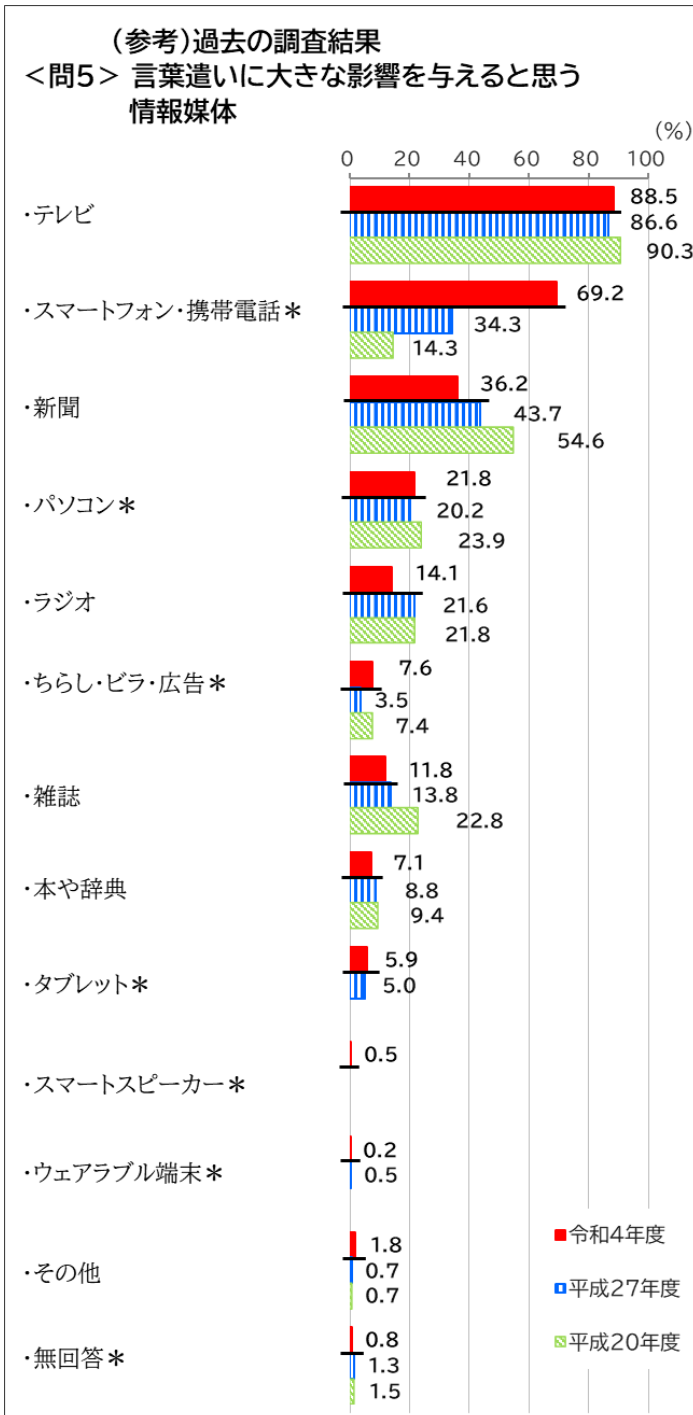
「テレビ」を選択した人の割合が他に比べて高く、88.5%となっている。次いで「スマートフォン・携帯電話」が69.2%、「新聞」が36.2%、「パソコン」が21.8%となっている。



〔 問5：(参考)過去の調査結果 〕

令和2年度から調査方法が変わったため、今回の調査結果との比較には注意が必要であるが、過去の調査結果（平成20,27年度）を参考値として次のグラフに示す。（並び順は問4に合わせている。）

過去の調査結果においては、令和4年度調査の「スマートフォン・携帯電話」に対応する「携帯電話（スマートフォン含む）」の割合が増加傾向にあった一方、「新聞」「雑誌」の割合が減少傾向にあった。



- * 調査方法の変更のため、令和元年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。
- * 「スマートフォン・携帯電話」は、平成27年度調査では「携帯電話（スマートフォン含む）」、平成20年度調査では「携帯電話」
- * 「パソコン」は、平成20年度調査では「パソコン（インターネット）」
- * 「ちらし・ビラ・広告」は、平成20,27年度調査では、「ちらし・ビラ」
- * 「タブレット」は、平成27年度調査では「タブレット端末」、平成20年度調査では選択肢になかった。
- * 「スマートスピーカー」は、平成20,27年度調査では、選択肢になかった。
- * 「ウェアラブル端末」は、平成20年度調査では、選択肢になかった。
- * 「無回答」は令和4年度調査のみ。平成20,27年度調査では、「分からない」の割合を示している。

〔 問5：年齢別の結果 〕

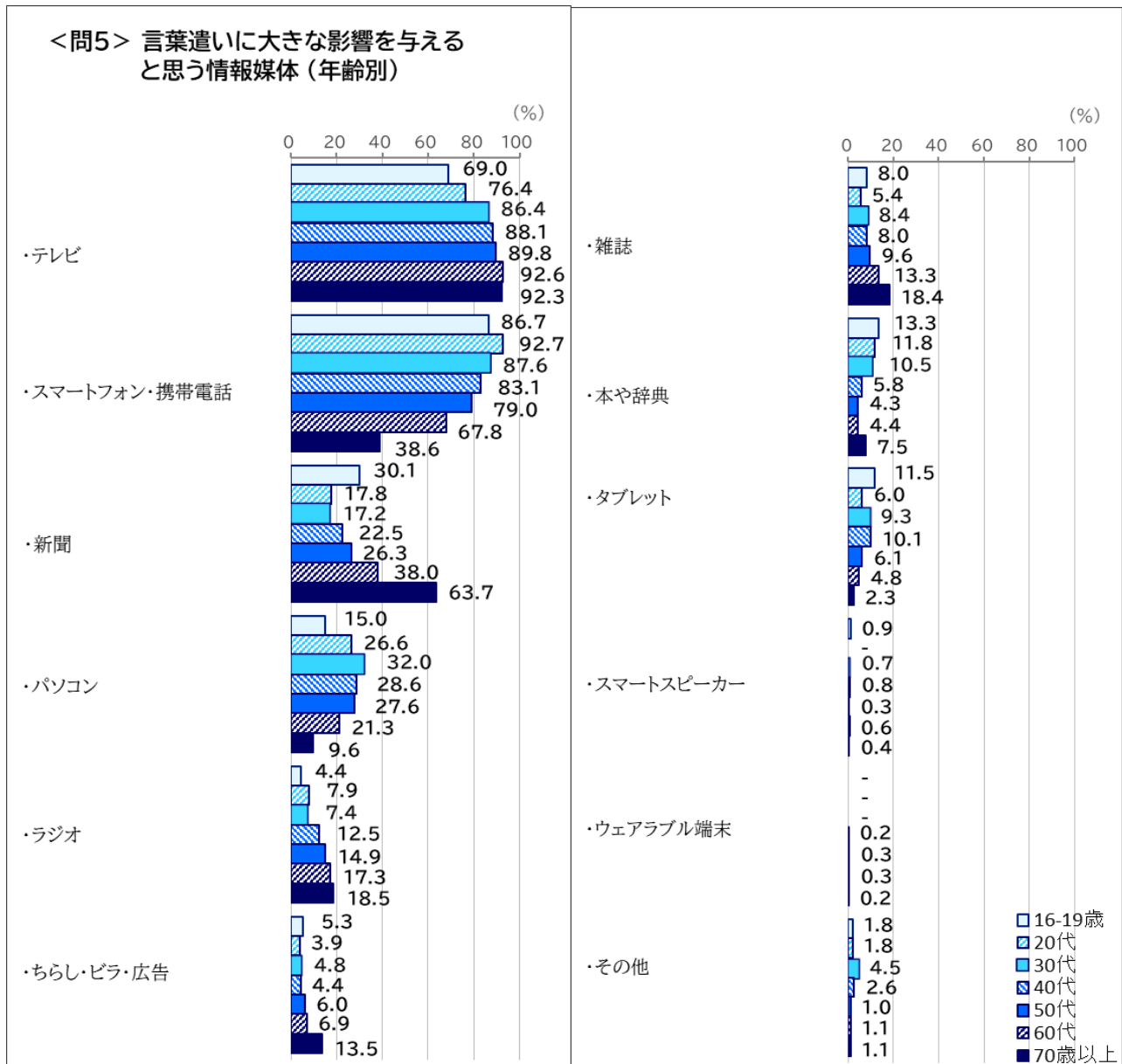
年齢別に見ると、次のグラフのとおり。（並び順は問4に合わせている。）

「テレビ」「ラジオ」は、おおむね年齢が上がるに従って、割合が高くなる傾向にある。

「新聞」は、年齢によって割合の差が大きく、70歳以上が63.7%と、ほかの年齢層より20ポイント以上高くなっている。

「スマートフォン・携帯電話」は、おおむね年齢が上がるに従って、割合が低くなる傾向にある。

「パソコン」は、16～19歳と70歳以上の割合が、ほかの年齢層より低くなっている。



〔 問5：問4「生活に必要な情報の入手先」との比較 〕

選択肢が同じ問4と問5の結果について比較する。

問4で「生活に必要な情報の入手先」として、選択した人の割合が高い選択肢ほど、問5でも「言葉遣いに大きな影響を与えると思う情報媒体」として選択した人の割合が高くなる傾向にある。

「テレビ」は、問4で「生活に必要な情報の入手先」として選択した人の割合（74.5%）より、問5で「言葉遣いに大きな影響を与えると思う情報媒体」として選択した人の割合（88.5%）が高くなっている。

一方、「新聞」は、問4で「生活に必要な情報の入手先」として選択した人の割合（45.1%）より、問5で「言葉遣いに大きな影響を与えると思う情報媒体」として選択した人の割合（36.2%）が低くなっている。

<問6> 日本語を大切にしているか (* p.21)

— 「大切にしている(計)」が6割台 —

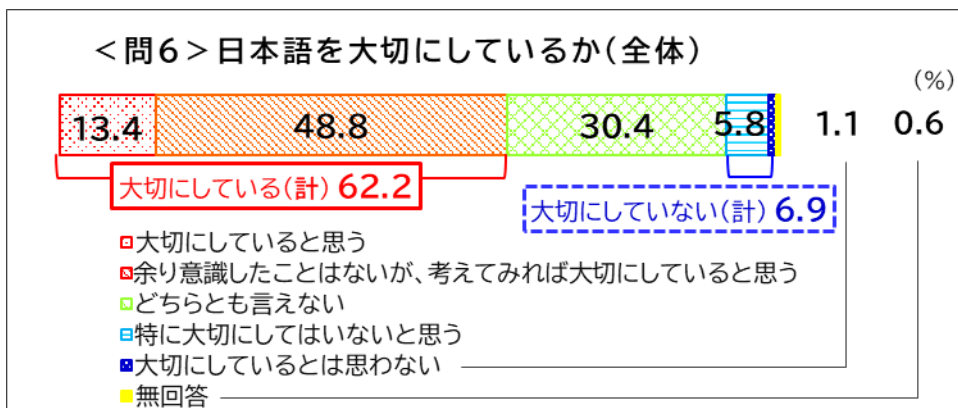
〔問6：質問〕

あなたは、毎日使っている日本語を大切にしていますか。それともそうはしていませんか。(一つ回答)

〔問6：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。

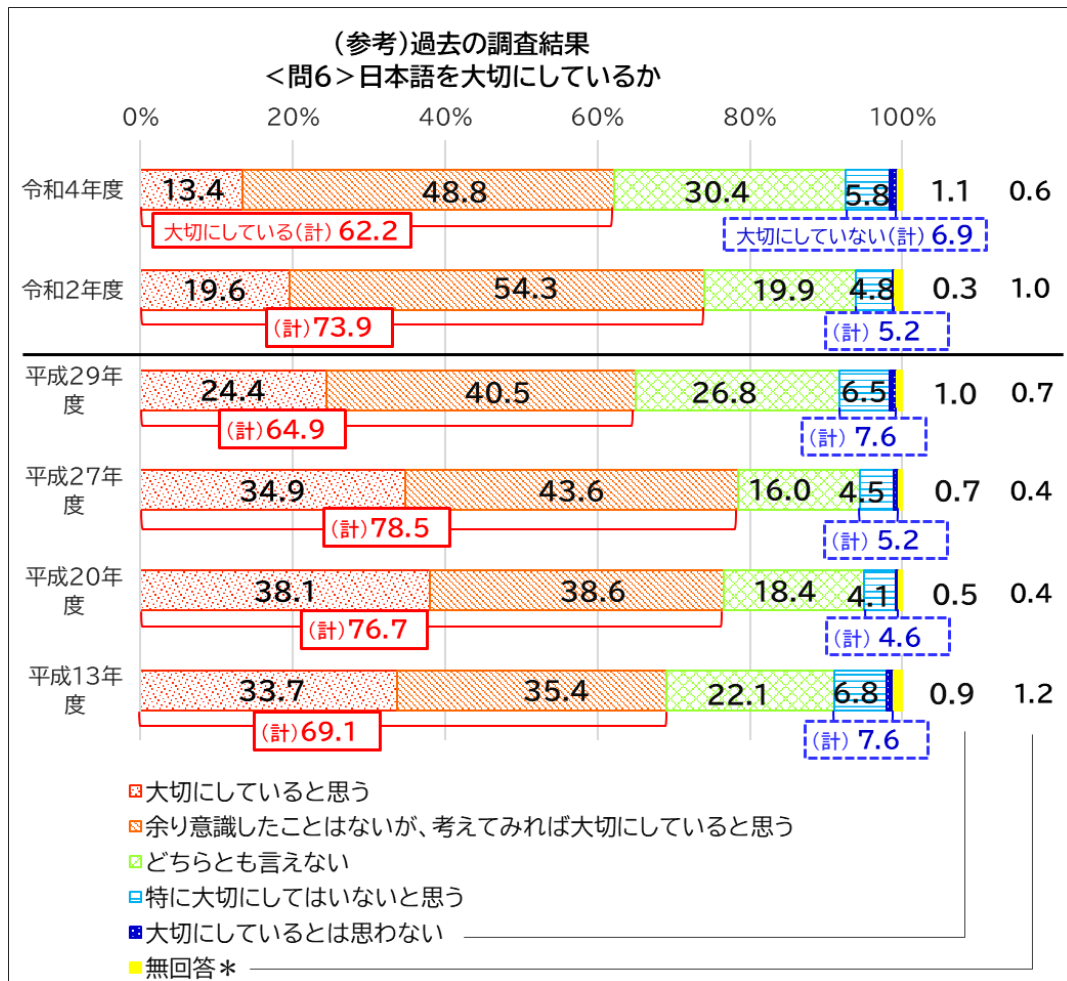
「大切にしていると思う」を選択した人の割合が13.4%、「余り意識したことはないが、考えてみれば大切にしていると思う」が48.8%で、この二つを合わせた「大切にしている(計)」は62.2%となっている。一方、「大切にしているとは思わない」は1.1%、「特に大切にしてはいないと思う」は5.8%で、この二つを合わせた「大切にしない(計)」は6.9%となっている。なお、「どちらとも言えない」は30.4%となっている。



〔 問6：(参考)過去の調査結果 〕

令和2年度から調査方法が変わったため、今回の調査結果との比較には注意が必要であるが、過去の調査結果（平成13、20、27、29、令和2年度）を次のグラフに参考値として示す。

過去の調査結果においては、継続した増加や減少といった傾向は見られない。



* 調査方法の変更のため、令和元年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。
 * 「無回答」は令和2、4年度調査のみ。平成13、20、27、29年度調査では、「分からない」の割合を示している。

<問6付問1> 日本語を大切にしている理由 (* p.23)

— 「日本語によってものを感じたり考えたりしていると思うから」が5割台と最も高い —

〔問6付問1：質問〕

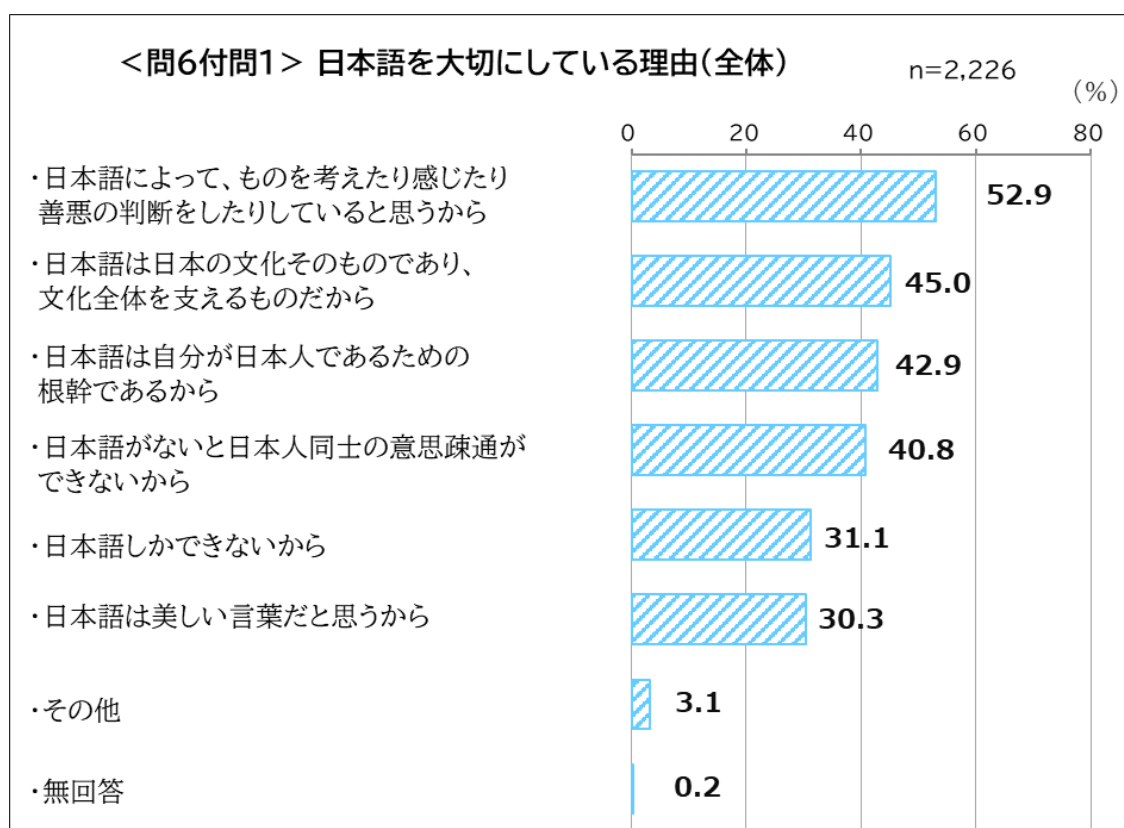
(問6で「大切にしていると思う」、「余り意識したことはないが、考えてみれば大切にしていると思う」と答えた人(全体の62.2%)に対して)

それはどのような理由からですか。(三つまで回答)

〔問6付問1：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。

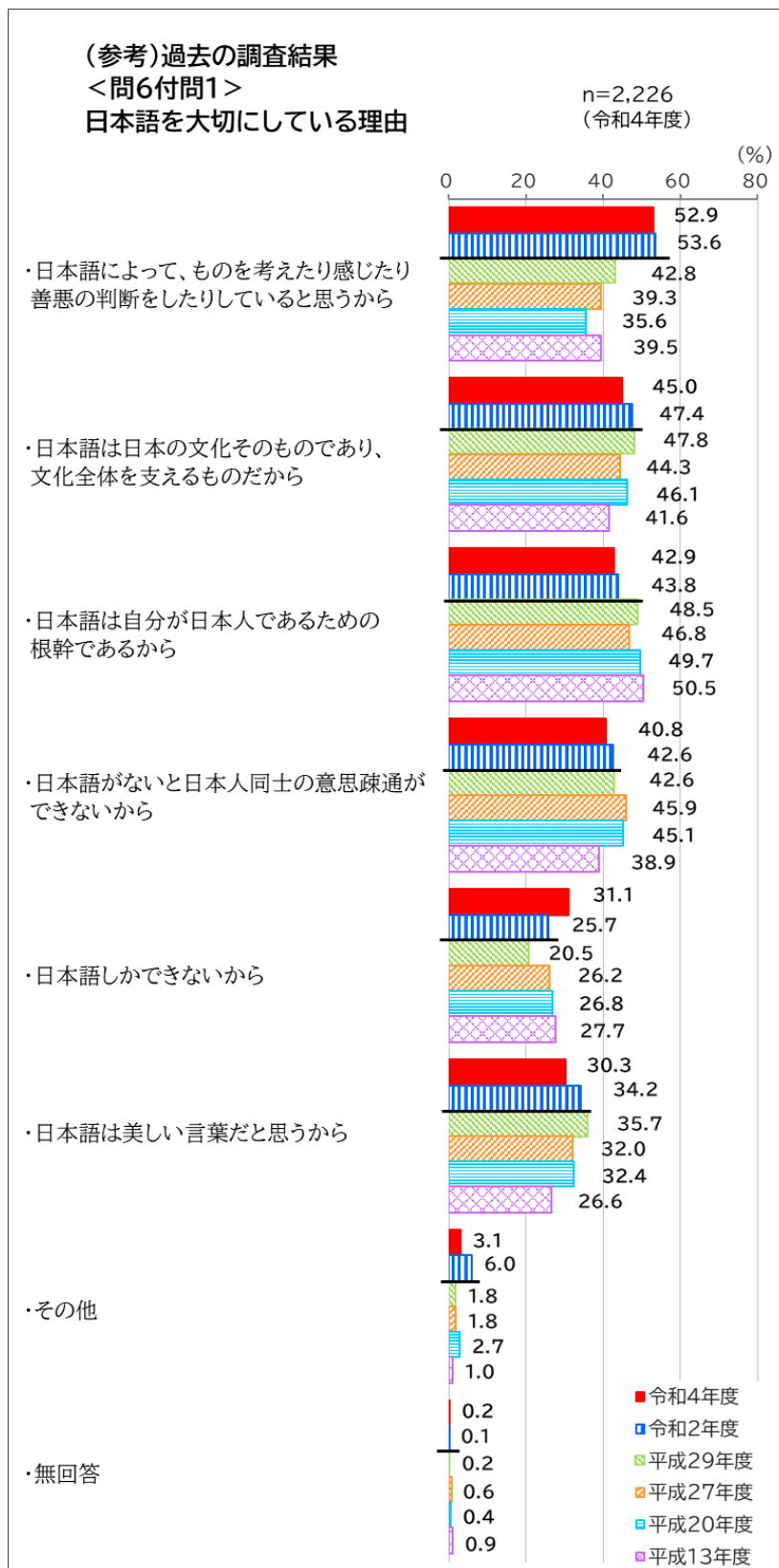
「日本語によって、ものを考えたり感じたり善悪の判断をしたりしていると思うから」を選択した人の割合が52.9%と最も高く、次いで「日本語は日本の文化そのものであり、文化全体を支えるものだから」(45.0%)、「日本語は自分が日本人であるための根幹であるから」(42.9%)、「日本語がないと日本人同士の意思疎通ができないから」(40.8%)が4割台となっている。



〔 問6付問1：(参考)過去の調査結果 〕

令和2年度から調査方法が変わったため、今回の調査結果との比較には注意が必要であるが、過去の調査結果（平成13、20、27、29、令和2年度）を参考値として下のグラフに示す。

過去の調査結果においては、継続した増加や減少といった傾向は特に見られない。



* 調査方法の変更のため、令和元年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。
 * 「無回答」は令和2、4年度調査のみ。平成13、20、27、29年度調査では、「分からない」の割合を示している。

Ⅲ ローマ字表記に関する意識

<問7> アルファベットの略語の意味が分からず困ることがあるか (* p.28)

— 「ある(計)」が8割台半ば—

〔問7：質問〕

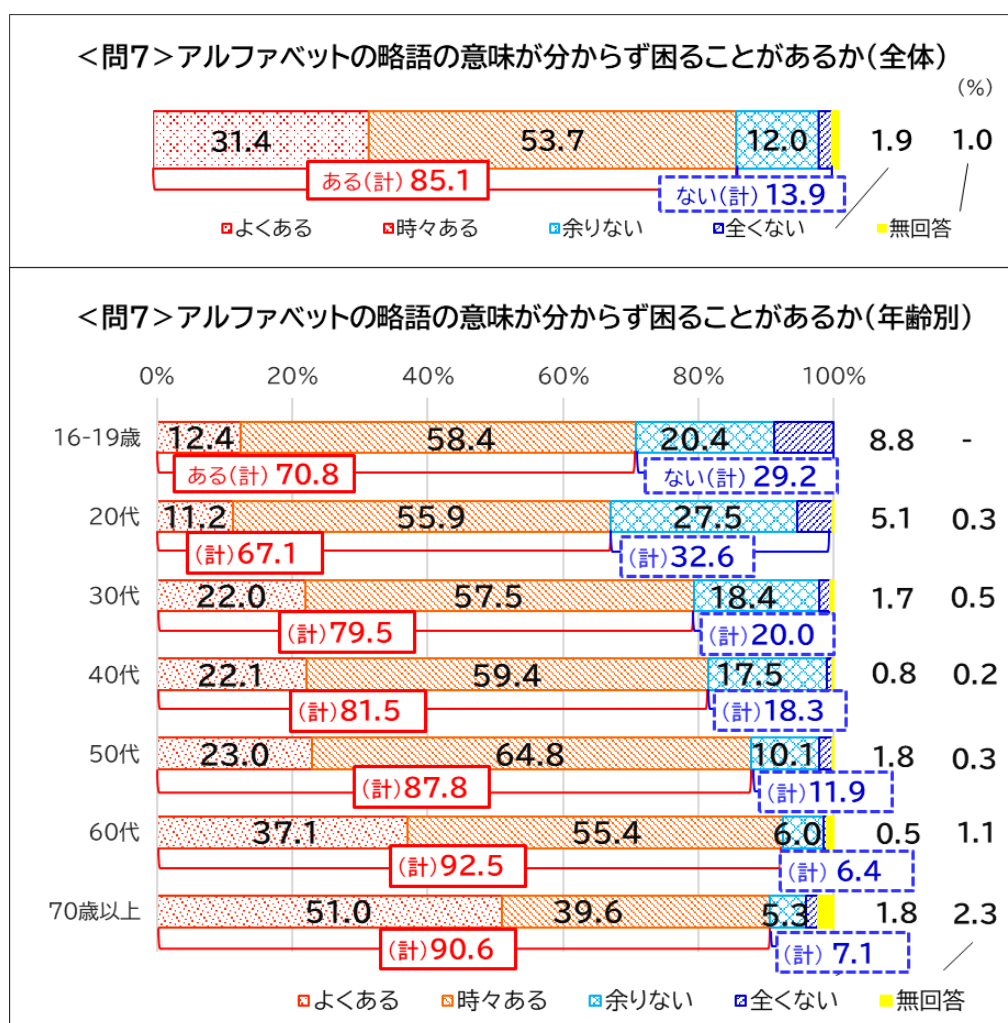
あなたは、ふだん、見聞きする言葉の中で、外国語の頭文字などを使ったいわゆるアルファベットの略語(例:AED、SNS、DX等)の意味が分からずに困ることがありますか。それとも、ありませんか。(一つ回答)

〔問7：全体の結果・年齢別の結果〕

結果は次のグラフのとおり。

「よくある」(31.4%)と「時々ある」(53.7%)を合わせた「ある(計)」の割合が85.1%、「全くない」(1.9%)と「余りない」(12.0%)を合わせた「ない(計)」が13.9%となっている。

また、「ある(計)」の割合を年齢別に見ると、おおむね年齢が上がるに従って、割合が高くなる傾向にある。



<問8> アルファベットの略語が用いられている状況を好ましいと感じるか (* p.30)

— 「好ましくないと感じる(計)」が 5割台半ば—

〔問8：質問〕

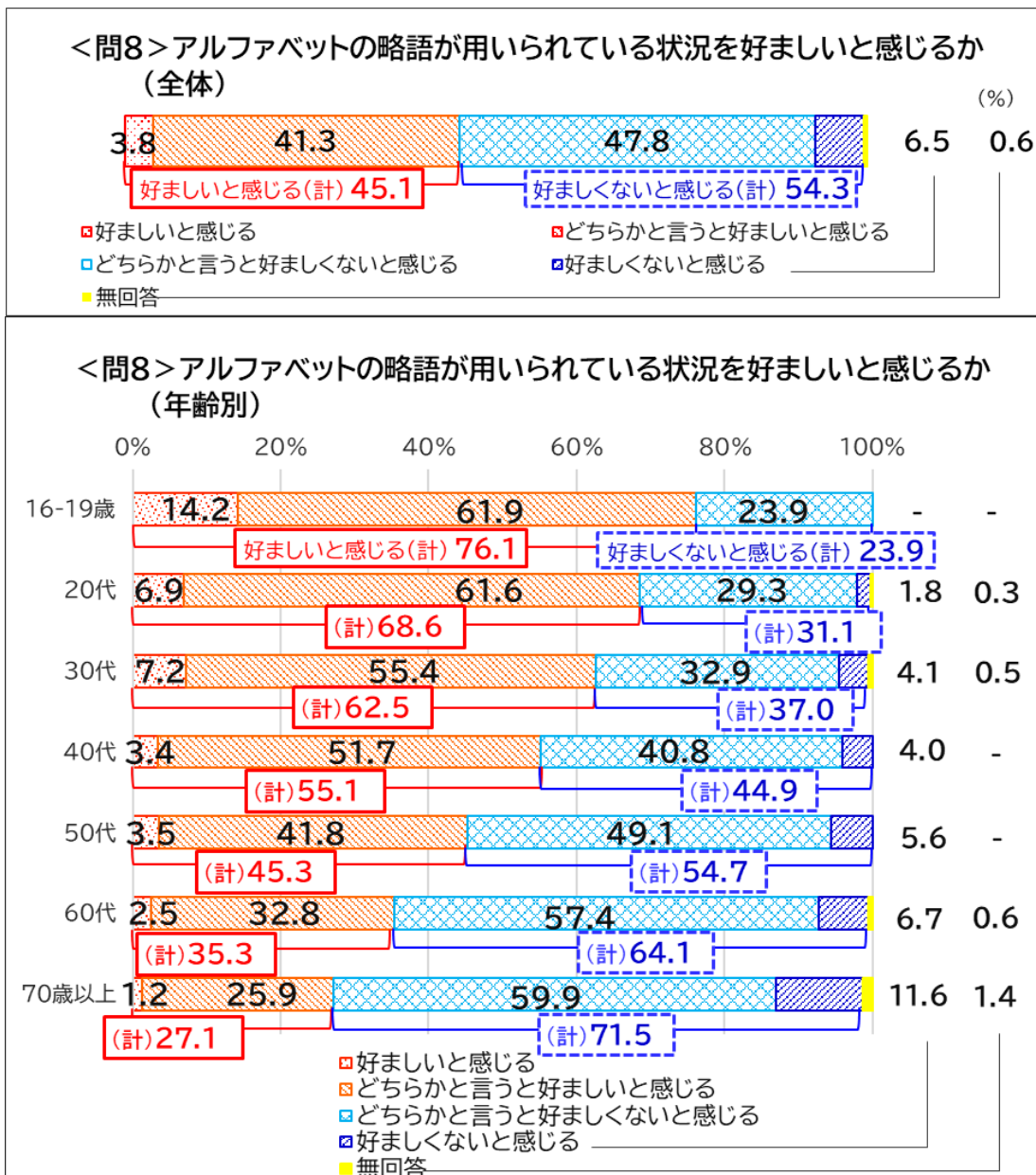
ふだん見聞きする言葉の中で、外国語の頭文字などを使ったいわゆるアルファベットの略語(例:AED、SNS、DX等)が用いられている状況を、あなたは、好ましいと感じますか。それとも、好ましくないと感じますか。(一つ回答)

〔問8：全体の結果・年齢別の結果〕

結果は次のグラフのとおり。

「好ましいと感じる」(3.8%)と「どちらかと言うと好ましいと感じる」(41.3%)を合わせた「好ましいと感じる(計)」の割合が45.1%、「好ましくないと感じる」(6.5%)と「どちらかと言うと好ましくないと感じる」(47.8%)を合わせた「好ましくないと感じる(計)」が54.3%となっている。

また、「好ましいと感じる(計)」の割合を年齢別に見ると、年齢による差が大きく、年齢が上がるに従って、割合が低くなっている。



<問8付問1> 好ましいと感じる理由 (* p.33)

— 「短く省略した方が使いやすいから」 が7割台後半と他より高い—

〔 問8付問1：質問 〕

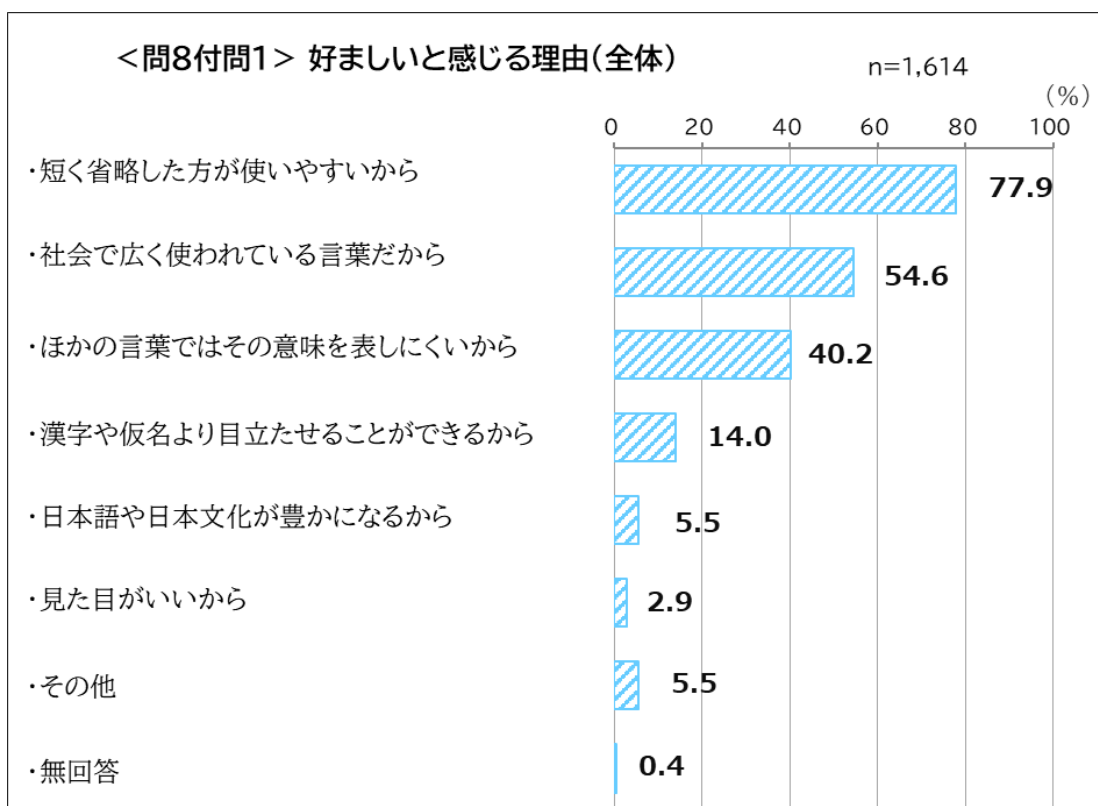
(問8で「好ましいと感じる」、「どちらかと言うと好ましいと感じる」と答えた人(全体の45.1%)に対して)

好ましいと感じるのは、どのような理由からですか。(幾つでも回答)

〔 問8付問1：全体の結果 〕

結果は次のグラフのとおり。

「短く省略した方が使いやすいから」を選択した人の割合が77.9%と最も高く、次いで「社会で広く使われている言葉だから」が54.6%、「ほかの言葉ではその意味を表しにくいから」が40.2%となっている。



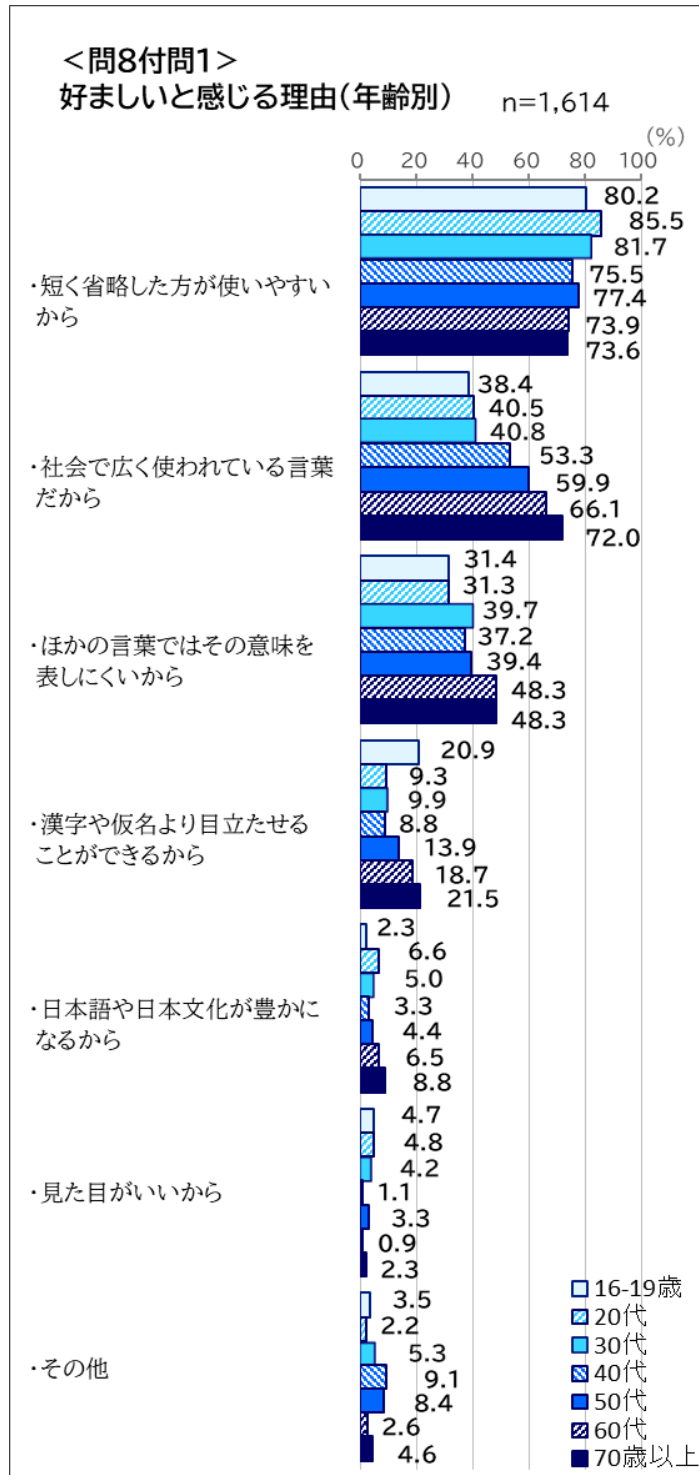
〔 問8付問1：年齢別の結果 〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「短く省略した方が使いやすいから」は、どの年齢層も7割を超えているが、特に30代以下が8割台と、ほかの年齢層よりやや高くなっている。

「社会で広く使われている言葉だから」「ほかの言葉ではその意味を表しにくいから」は、年齢が上がるに従って、割合が高くなる傾向にある。

また、「漢字や仮名より目立たせることができるから」は、16～19歳と60代以上が約2割と、ほかの年齢層より高くなっている。



<問8付問2> 好ましくないと感じる理由 (* p.35)

— 「意味が分かりにくいから」が9割台半ばと最も高い —

〔問8付問2：質問〕

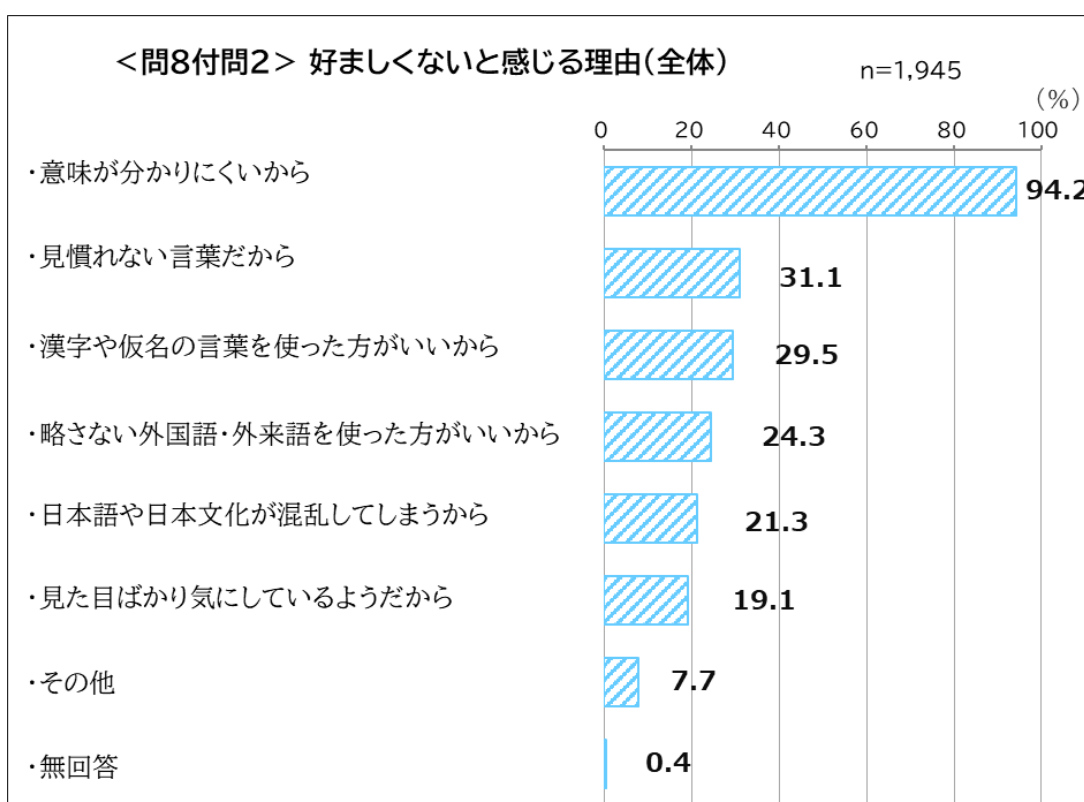
(問8で「どちらかと言うと好ましくないと感じる」、「好ましくないと感じる」と答えた人(全体の54.3%)に対して)

好ましくないと感じるのは、どのような理由からですか。(幾つでも回答)

〔問8付問2：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。

「意味が分かりにくいから」を選択した人の割合が94.2%と最も高く、次いで「見慣れない言葉だから」(31.1%)、「漢字や仮名の言葉を使った方がいいから」(29.5%)が約3割となっている。



〔 問8付問2：年齢別の結果 〕

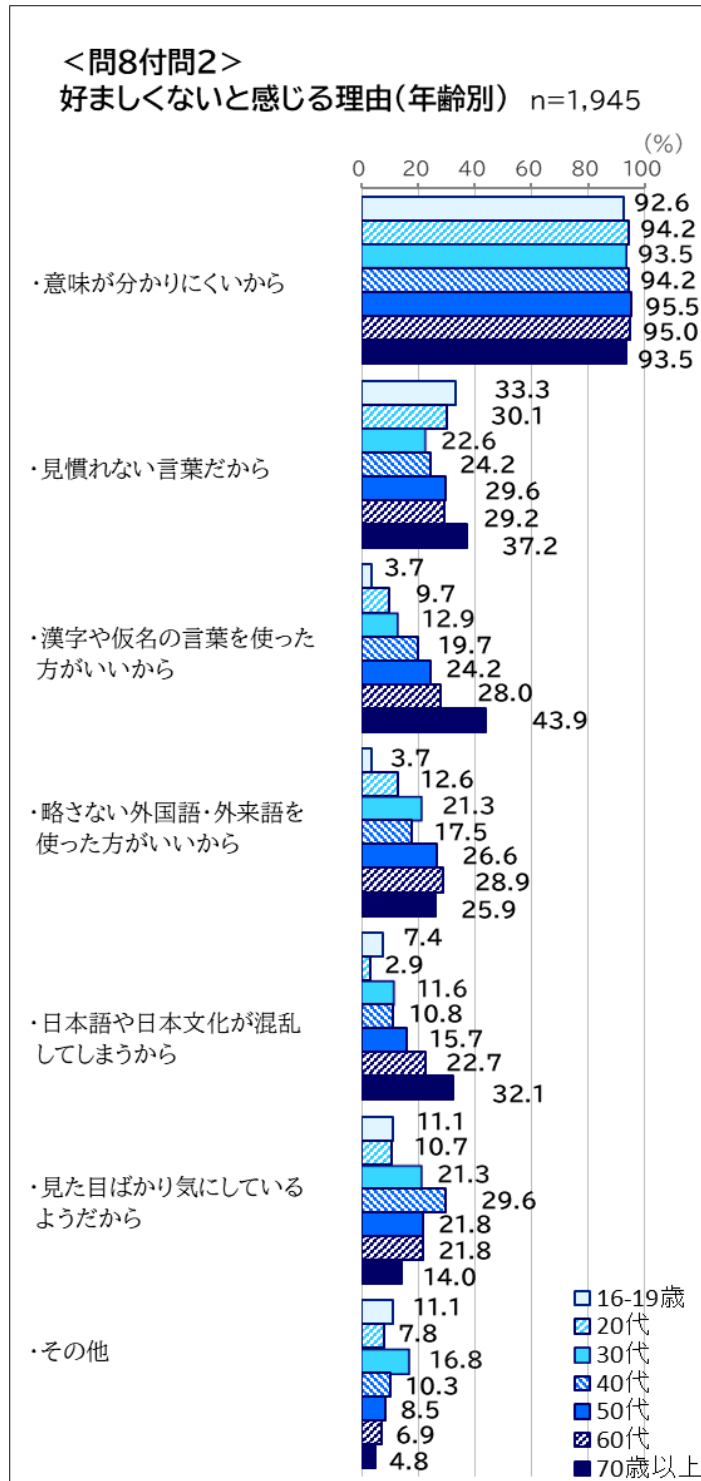
年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「意味が分かりにくいから」は、どの年齢層も9割台となっている。

「見慣れない言葉だから」は、30代（22.6%）、40代（24.2%）が2割台前半と、ほかの年齢層よりやや低くなっている。

「漢字や仮名の言葉を使った方がいいから」は、年齢が上がるに従って、割合が高くなっている。「日本語や日本文化が混乱してしまうから」も、同様の傾向にある。

「見た目ばかり気にしているようだから」は、40代が29.6%と、ほかの年齢層より高くなっている。



問9～問12について

ここで尋ねる「日本語をローマ字で書き表す」とは、「田中」を「Tanaka」、「本」を「hon」、「ごめん」を「gomen」とするように、日本語を日本語のままローマ字で書くことである。

「ローマ字による日本語の書き表し方」とは、この「日本語をローマ字で書き表す」方法のことである。

次のような書き方は、ここで尋ねる「日本語をローマ字で書き表す」ことではない。

- × 外国語で書く（「本」という意味で「book」、「ごめん」という意味で「sorry」とするように、英語などの外国語で書くこと）
- × ローマ字入力（パソコン等で「伊藤（いとう）」と表示させるのに「ITOU」「itou」、「秋（あき）」と表示させるのに「AKI」「aki」というように、キーボードなどでローマ字入力すること）

<問9> 日本語をローマ字で書き表すことがあるか (* p.37)

— 「ない」が約7割 —

〔問9：質問〕

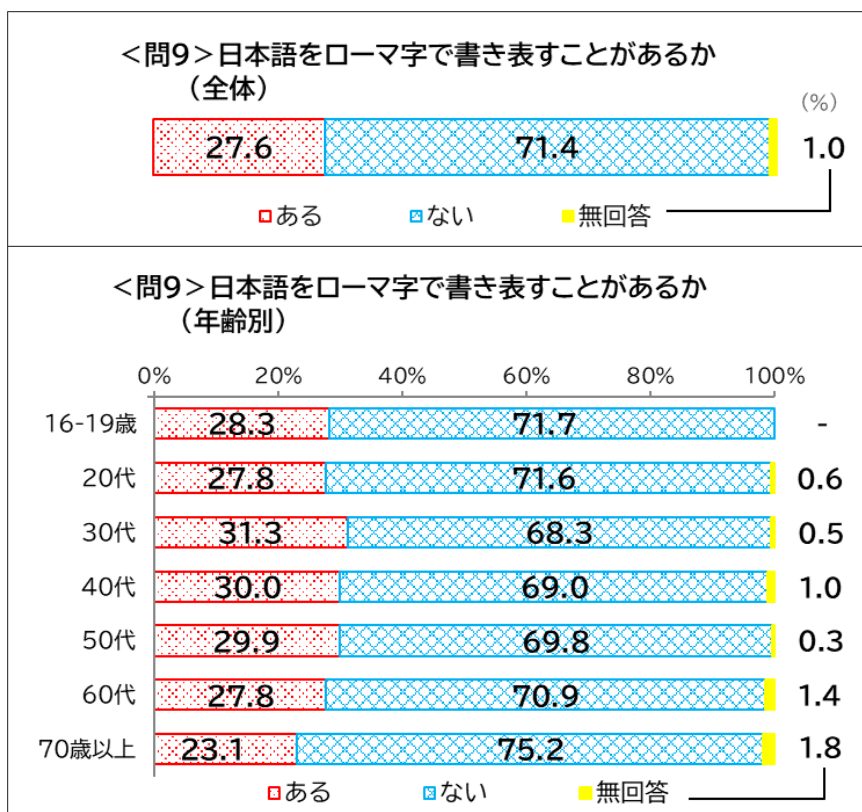
あなたは、ふだん、上の囲みで説明しているような意味で「日本語をローマ字で書き表す」ことがありますか。それとも、ありませんか。（一つ回答）

〔問9：全体の結果・年齢別の結果〕

結果は次のグラフのとおり。

「ある」を選択した人の割合が27.6%となっている一方、「ない」が71.4%となっている。

また、「ある」を選択した人の割合を年齢別に見ると、70歳以上が23.1%と、ほかの年齢層よりやや低くなっている。



<問9付問> どのくらいの長さまで日本語をローマ字で書き表すことがあるか

(* p.40)

— 「一つの言葉や名前くらいの長さまで」 が8割台後半—

〔 問9付問：質問 〕

(問9で「ある」と答えた人(全体の27.6%)に対して)

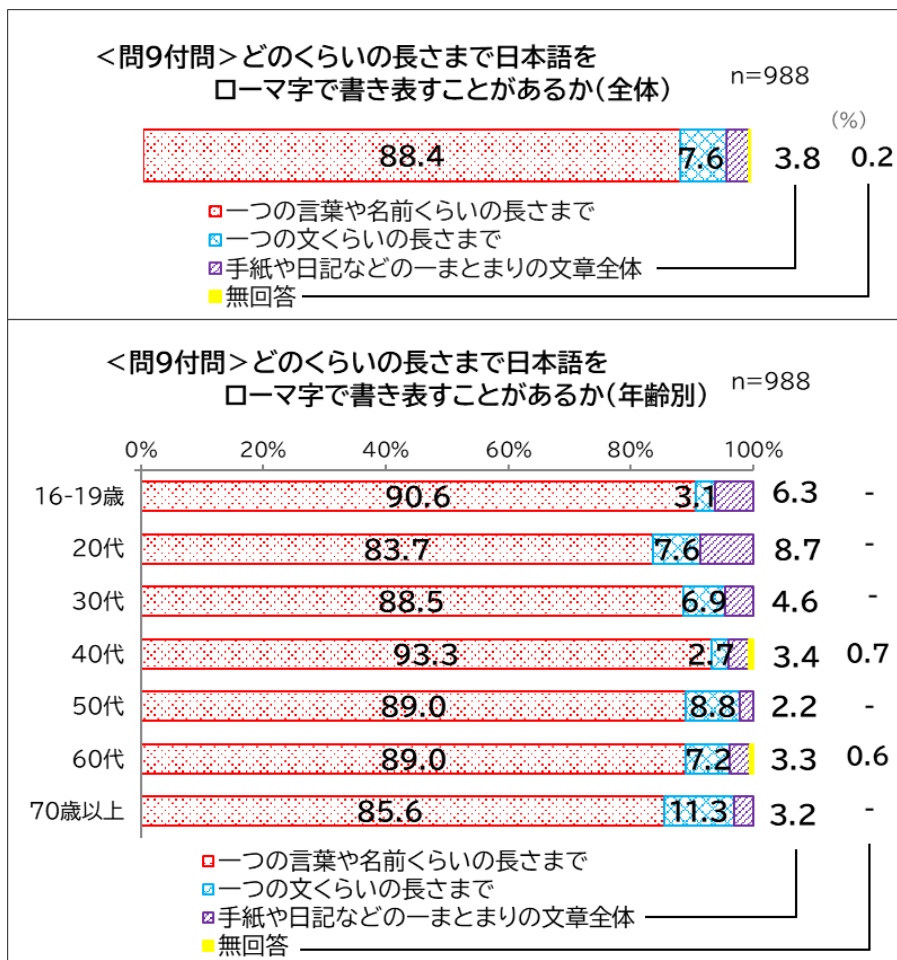
ふだん、どのくらいの長さまで「日本語をローマ字で書き表す」ことがありますか。(一つ回答)

〔 問9付問：全体の結果・年齢別の結果 〕

結果は次のグラフのとおり。

「一つの言葉や名前くらいの長さまで(例: Tanaka Haruko, wasabi)」を選択した人の割合が88.4%と最も高く、「一つの文くらいの長さまで(例: Wataru seken ni oni wa nai.)」が7.6%、「手紙や日記などの一まとまりの文章全体(例: Asa okitara ame datta. Sakuban kasa o mise ni wasurete kita node komatta...)」が3.8%となっている。

また、「一つの言葉や名前くらいの長さまで」を選択した人の割合を年齢別に見ると、どの年齢層も8割以上となっている。



<問10> ローマ字表記を知っているとどのような利点があると思うか (* p.41)

— 「パソコンなどで日本語をローマ字入力するのに役立つ」が7割台と最も高い —

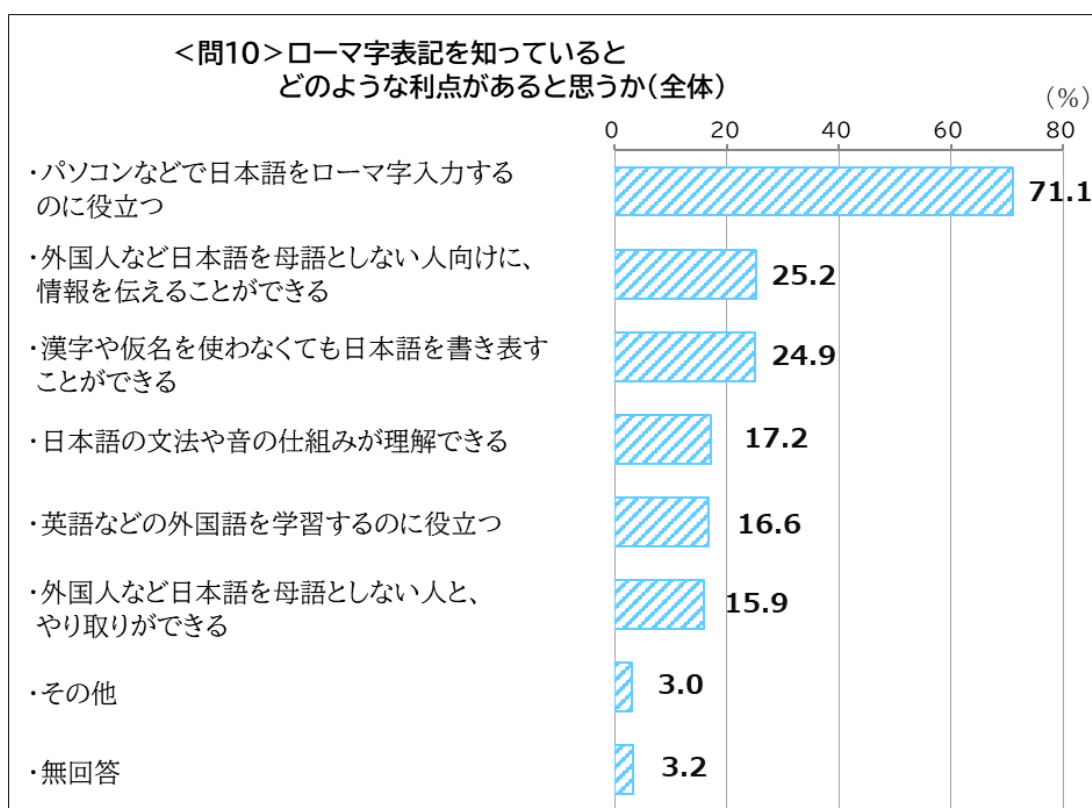
〔問10：質問〕

「ローマ字による日本語の書き表し方」を知っていると、どのような利点があると思いますか。
(幾つでも回答)

〔問10：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。

「パソコンなどで日本語をローマ字入力するのに役立つ」を選択した人の割合が71.1%と最も高く、次いで「外国人など日本語を母語としない人向けに、情報を伝えることができる」(25.2%)、「漢字や仮名を使わなくても日本語を書き表すことができる」(24.9%)が2割台となっている。



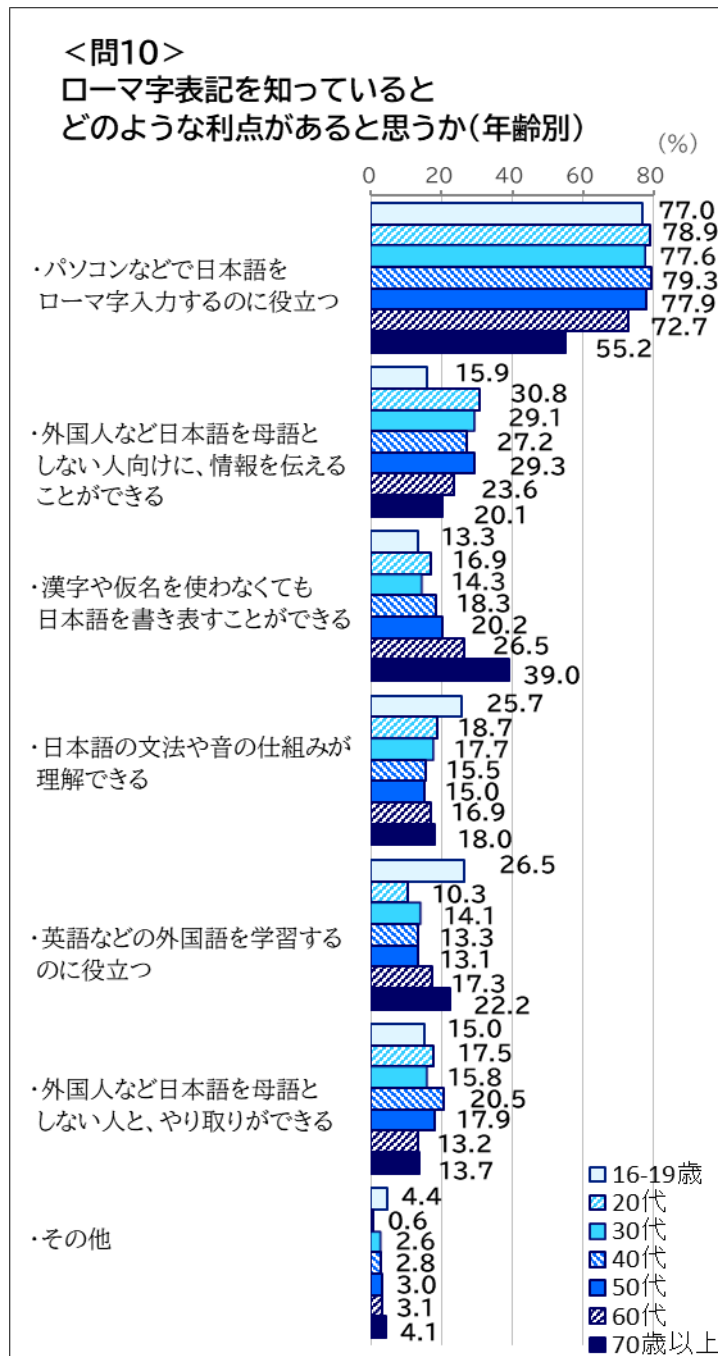
〔問10：全体の結果・年齢別の結果〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「パソコンなどで日本語をローマ字入力するのに役立つ」は、70歳以上が55.2%と、ほかの年齢層より低くなっている。一方、「漢字や仮名を使わなくても日本語を書き表すことができる」は、70歳以上が39.0%と、ほかの年齢層より高くなっている。

「外国人など日本語を母語としない人向けに、情報を伝えることができる」は、16～19歳が15.9%、70歳以上が20.1%と、ほかの年齢層より低くなっている。一方、「英語などの外国語を学習するのに役立つ」は、16～19歳（26.5%）と70歳以上（22.0%）が2割台と、ほかの年齢層より高くなっている。

また、「日本語の文法や音の仕組みが理解できる」は、16～19歳が25.7%と、ほかの年齢層より高くなっている。



<問 11> 学びやすいと思うローマ字表記 (* p.43)

— どの書き表し方も一定数選ばれている —

〔 問 11：質問 〕

「ローマ字による日本語の書き表し方」を学ぶとしたら、(1)～(8)は、それぞれどの書き表し方が学びやすいと思いますか。(一つずつ回答)

- | | |
|---------------|---------------|
| (1) サ、シ、ス、セ、ソ | (2) シャ、シュ、シヨ |
| (3) タ、チ、ツ、テ、ト | (4) チャ、チュ、チョ |
| (5) ザ、ジ、ズ、ゼ、ゾ | (6) ジャ、ジュ、ジョ |
| (7) ダ、ヂ、ヅ、デ、ド | (8) ハ、ヒ、フ、ヘ、ホ |

※ 「ローマ字のつづり方」(昭和 29 年内閣告示)では、第 1 表にはいわゆる訓令式のつづり方が、第 2 表にはいわゆるへボン式(表の上から 5 列目まで)と日本式(6 列目以下)のつづり方のうち、第 1 表と異なるものが示されている。

〔 問 11：(1)～(8)の結果・年齢別の結果 〕

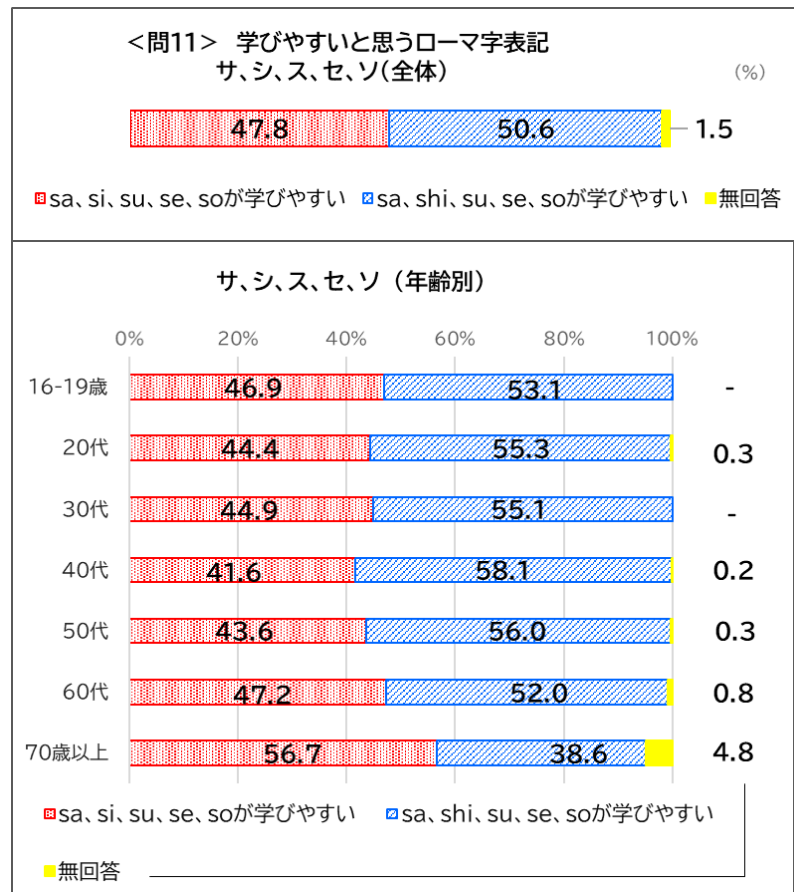
(1)～(8)についての結果は、それぞれ以下のグラフのとおり。

(1) サ、シ、ス、セ、ソ

「sa, si, su, se, so が学びやすい」を選択した人の割合が 47.8%、「sa, shi, su, se, so が学びやすい」が 50.6%となっている。

年齢別に見ると、「sa, si, su, se, so が学びやすい」は、70 歳以上で 56.7%と、ほかの年齢層より高くなっている。

※ 「sa, si, su, se, so」は「ローマ字のつづり方」の第 1 表、「sa, shi, su, se, so」は第 2 表(いわゆるへボン式)による表記。



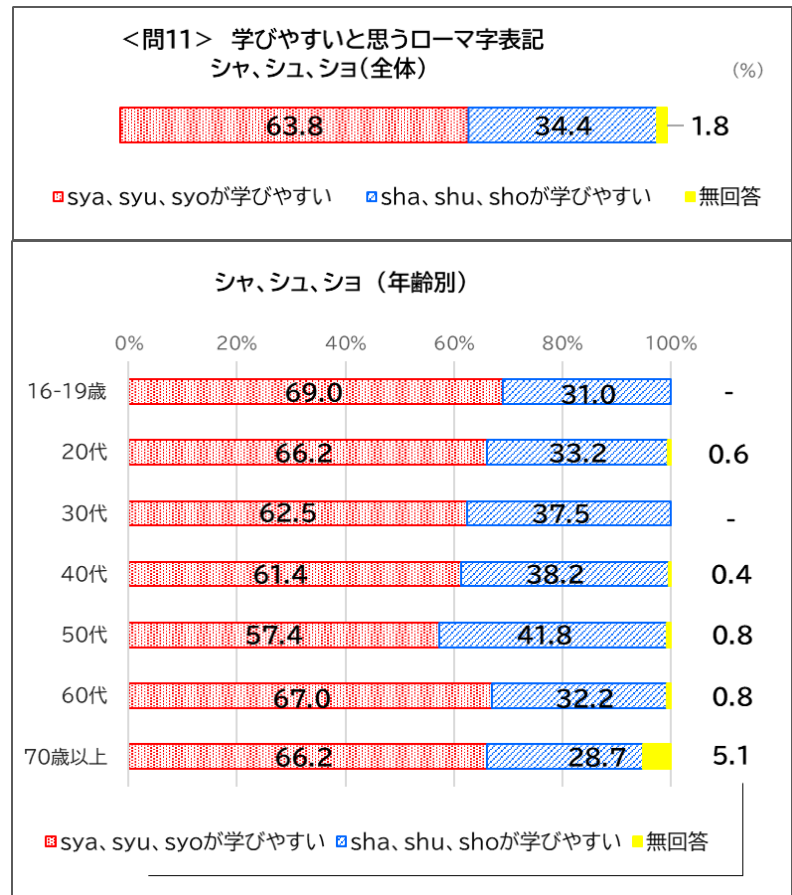
※ グラフの赤い棒 ■ は訓令式、青い棒 ■ はへボン式のつづり方

(2) シャ、シュ、シヨ

「sya, syu, syo が学びやすい」を選択した人の割合が63.8%、「sha, shu, sho が学びやすい」が34.4%となっている。

年齢別にみると、「sha, shu, sho が学びやすい」は、50代が41.8%と最も高くなっている。

※ 「sya, syu, syo」は「ローマ字のつづり方」の第1表、「sha, shu, sho」は第2表（いわゆるヘボン式）による表記。



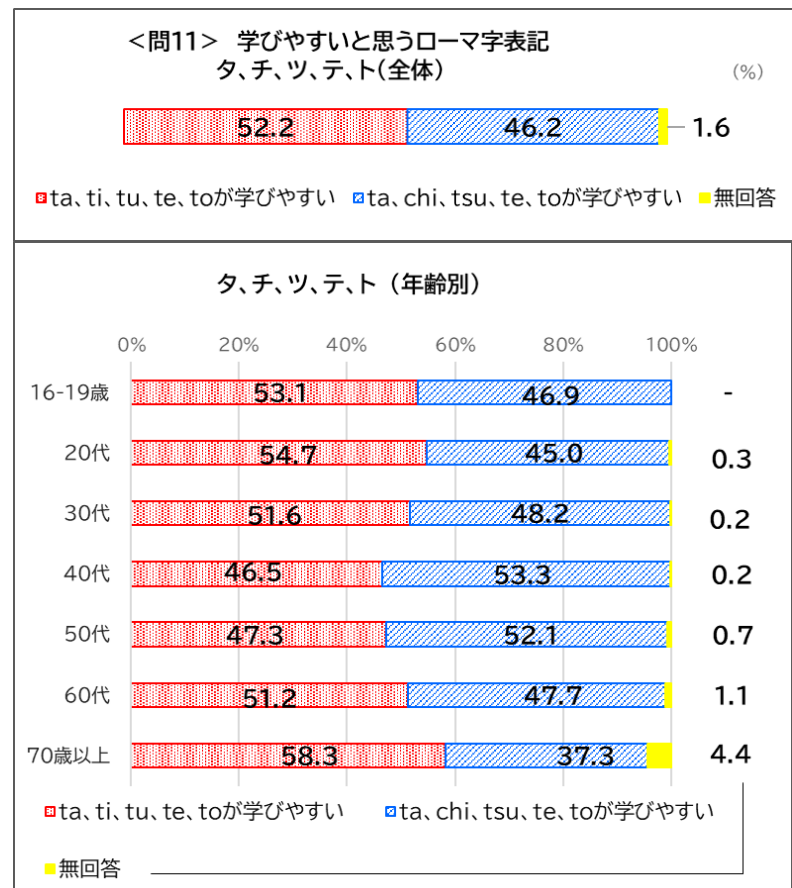
※ グラフの赤い棒 ■ は訓令式、青い棒 ■ はヘボン式のつづり方

(3) タ、チ、ツ、テ、ト

「ta, ti, tu, te, to が学びやすい」を選択した人の割合が52.2%、「ta, chi, tsu, te, to が学びやすい」が46.2%となっている。

年齢別に見ると、「ta, chi, tsu, te, to が学びやすい」は、40、50代が5割台と、ほかの年齢層より高くなっている。

※ 「ta, ti, tu, te, to」は「ローマ字のつづり方」の第1表、「ta, chi, tsu, te, to」は第2表（いわゆるヘボン式）による表記。



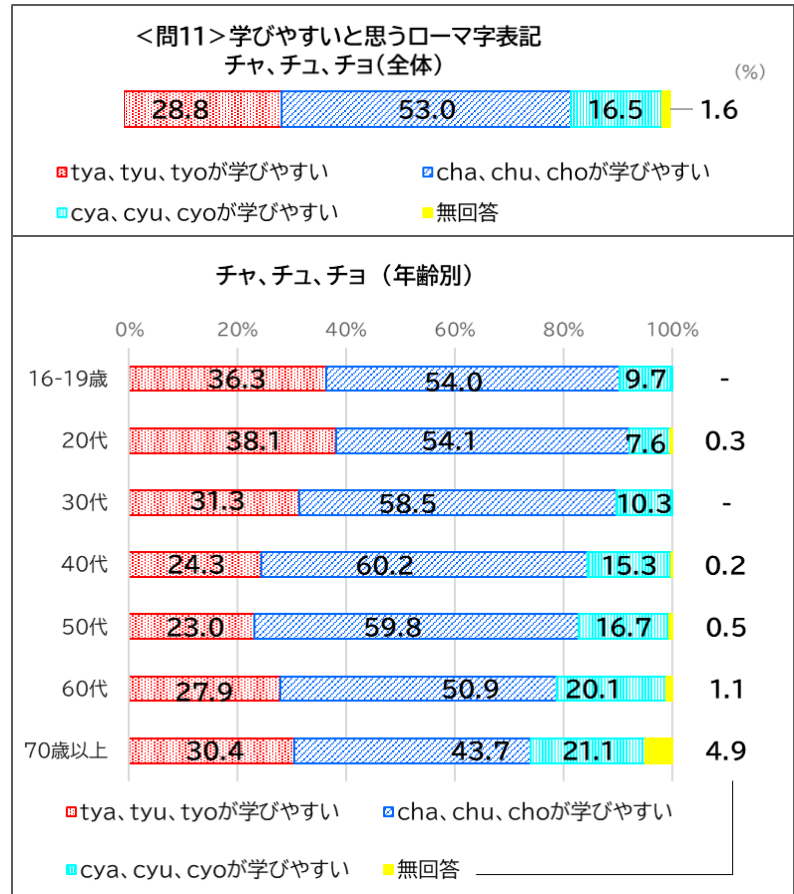
※ グラフの赤い棒 ■ は訓令式、青い棒 ■ はヘボン式のつづり方

(4) チャ、チュ、チヨ

「tya, tyu, tyo が学びやすい」を選択した人の割合が28.8%、「cha, chu, cho が学びやすい」が53.0%、「cya, cyu, cyo が学びやすい」が16.5%となっている。

年齢別に見ると、「tya, tyu, tyo が学びやすい」は、20代以下が3割台後半と、ほかの年齢層よりやや高くなっている。「cha, chu, cho が学びやすい」は、30代から50代が約6割と、ほかの年齢層より高くなっている。「cya, cyu, cyo が学びやすい」は、おおむね年齢が上がるに従って、割合が高くなる傾向にある。

※ 「tya, tyu, tyo」は「ローマ字のつづり方」の第1表、「cha, chu, cho」は第2表（いわゆるヘボン式）による表記。「cya, cyu, cyo」は「ローマ字のつづり方」によらない表記であり、電子機器でローマ字入力するときなどに用いられることがある。



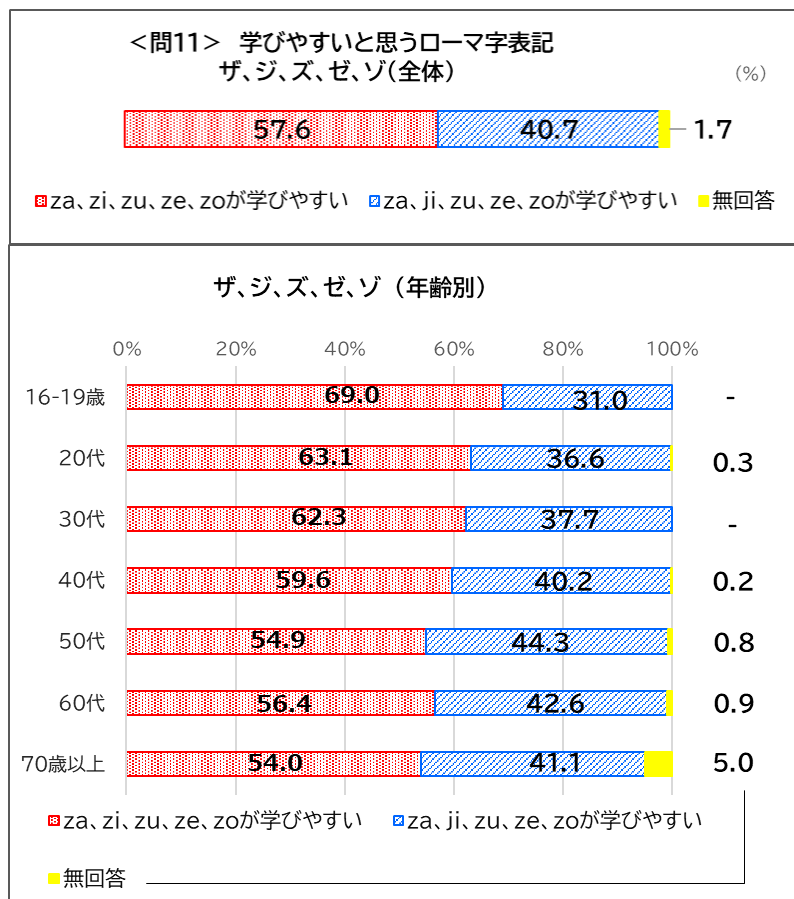
※ グラフの赤い棒 ■ は訓令式、青い棒 ■ はヘボン式のつづり方

(5) ザ、ジ、ズ、ゼ、ゾ

「za, zi, zu, ze, zo が学びやすい」を選択した人の割合が57.6%、「za, ji, zu, ze, zo が学びやすい」が40.7%となっている。

年齢別に見ると、「za, zi, zu, ze, zo が学びやすい」は、16~19歳が約7割と、ほかの年齢層より高くなっている。

※ 「za, zi, zu, ze, zo」は「ローマ字のつづり方」の第1表、「za, ji, zu, ze, zo」は第2表（いわゆるヘボン式）による表記。



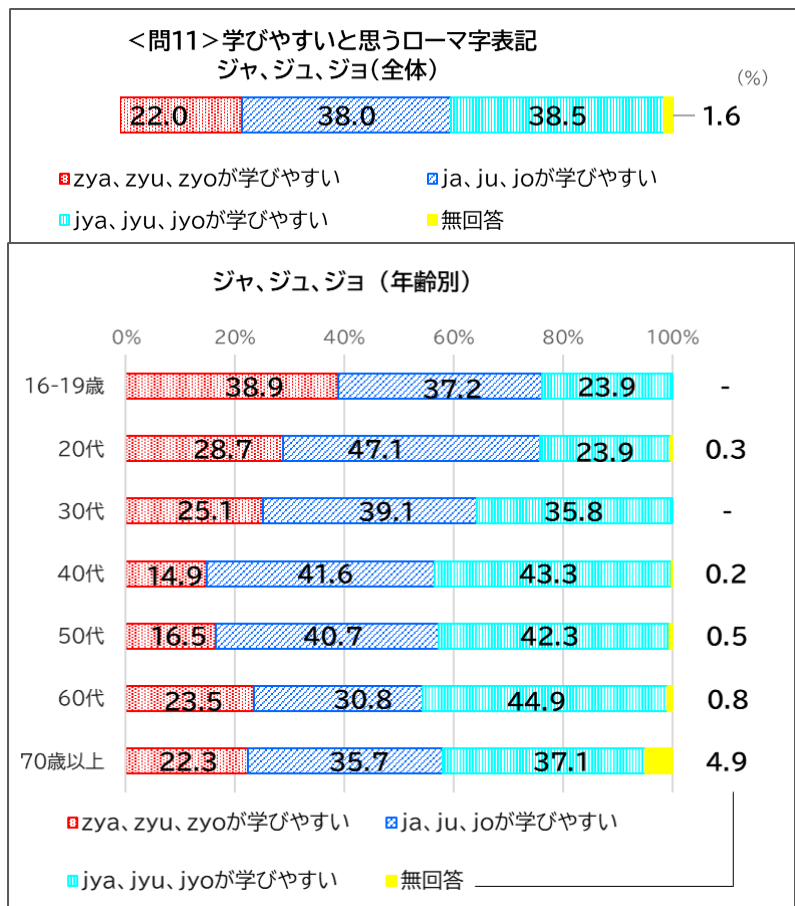
※ グラフの赤い棒 ■ は訓令式、青い棒 ■ はヘボン式のつづり方

(6) ジャ、ジュ、ジョ

「zya, zyu, zyo が学びやすい」を選択した人の割合が22.0%、「ja, ju, jo が学びやすい」が38.0%、「jya, jyu, jyo が学びやすい」が38.5%となっている。

年齢別に見ると、「zya, zyu, zyo が学びやすい」は、16～19歳が38.9%と、ほかの年齢層より高くなっている。「ja, ju, jo が学びやすい」は20代が47.1%と、ほかの年齢層より高くなっている。「jya, jyu, jyo が学びやすい」は、40代から60代で4割台と、ほかの年齢層より高くなっている。

※ 「zya, zyu, zyo」は「ローマ字のつづり方」の第1表、「ja, ju, jo」は第2表（いわゆるヘボン式）による表記。「jya, jyu, jyo」は「ローマ字のつづり方」によらない表記であり、電子機器でローマ字入力するときなどに用いられることがある。



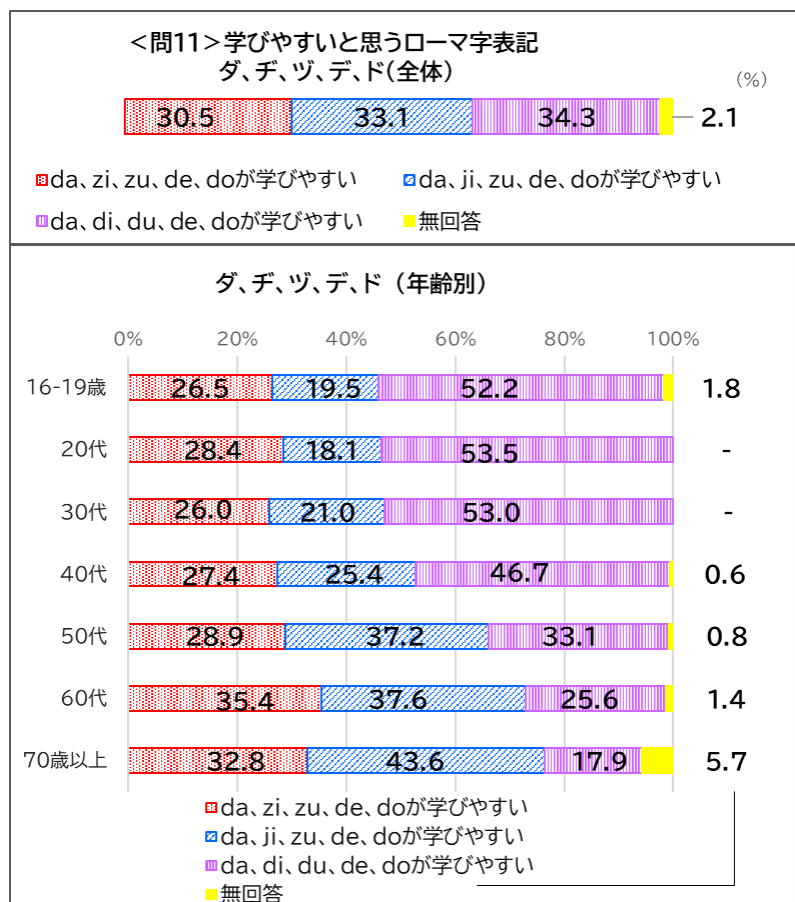
※ グラフの赤い棒は訓令式、青い棒はヘボン式のつづり方

(7) ダ、ヂ、ヅ、デ、ド

「da, zi, zu, de, do が学びやすい」を選択した人の割合が30.5%、「da, ji, zu, de, do が学びやすい」が33.1%、「da, di, du, de, do が学びやすい」が34.3%となっている。

年齢別に見ると、「da, zi, zu, de, do が学びやすい」は、60代以上が3割台と、ほかの年齢層より高くなっている。「da, ji, zu, de, do が学びやすい」は、50代以上が3割台後半から4割台と、ほかの年齢層より高くなっている。一方、「da, di, du, de, do が学びやすい」は、40代以下が4割台後半から5割台と、ほかの年齢層より高くなっている。

※ 「da, zi, zu, de, do」は「ローマ字のつづり方」の第1表、「da, ji, zu, de, do」は第2表（いわゆるヘボン式）、「da, di, du, de, do」は第2表（日本式）による表記。



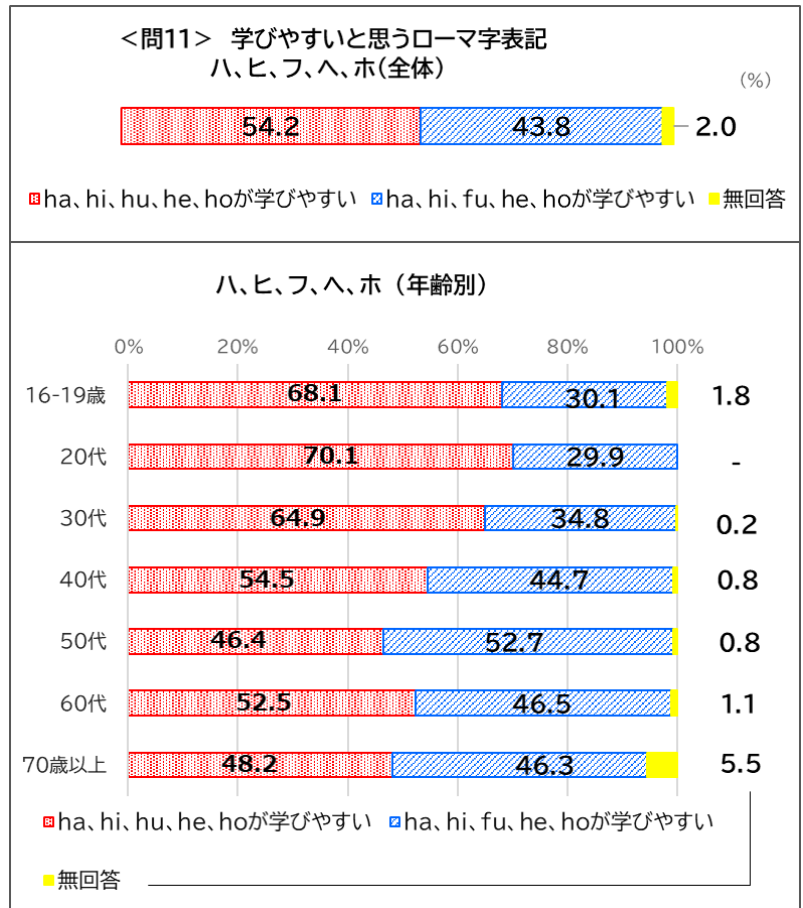
※ グラフの赤い棒は訓令式、青い棒はヘボン式の、紫い棒は日本式のつづり方

(8) ハ、ヒ、フ、ヘ、ホ

「ha, hi, hu, he, hoが学びやすい」を選択した人の割合が54.2%、「ha, hi, fu, he, hoが学びやすい」が43.8%となっている。

年齢別に見ると、「ha, hi, hu, he, hoが学びやすい」は、30代以下で6割から約7割と、ほかの年齢層より高くなっている。

※ 「ha, hi, hu, he, ho」は「ローマ字のつづり方」の第1表、「ha, hi, fu, he, ho」は第2表（いわゆるヘボン式）による表記。



※ グラフの赤い棒■は訓令式、青い棒■はヘボン式のつづり方

<問 12> ローマ字の長音符号の代わりに使いやすいと思う表示

(* p.49)

— 「Koube が使いやすい」が6割台、「Oosaka が使いやすい」が5割台とそれぞれ最も高い —

〔 問 12 : 質問 〕

ローマ字では、「神戸 (こうべ) 」は「Kôbe」「Kôbe」、「大阪 (おおさか) 」は「ôsaka」「Ôsaka」などと書き表しますが、パソコンなどの情報機器では「ô (ô) 」や「ō (ō) 」のような符号付きの文字を表示させるのが難しい場合があります。

その代わりとなる表示として、どれが使いやすいと思いますか。あなたのお考えに近いものをそれぞれ一つずつ選んでください。(一つずつ回答)

- (1) 神戸 (こうべ) (2) 大阪 (おおさか)

〔 問 12 : 全体の結果・年齢別の結果 〕

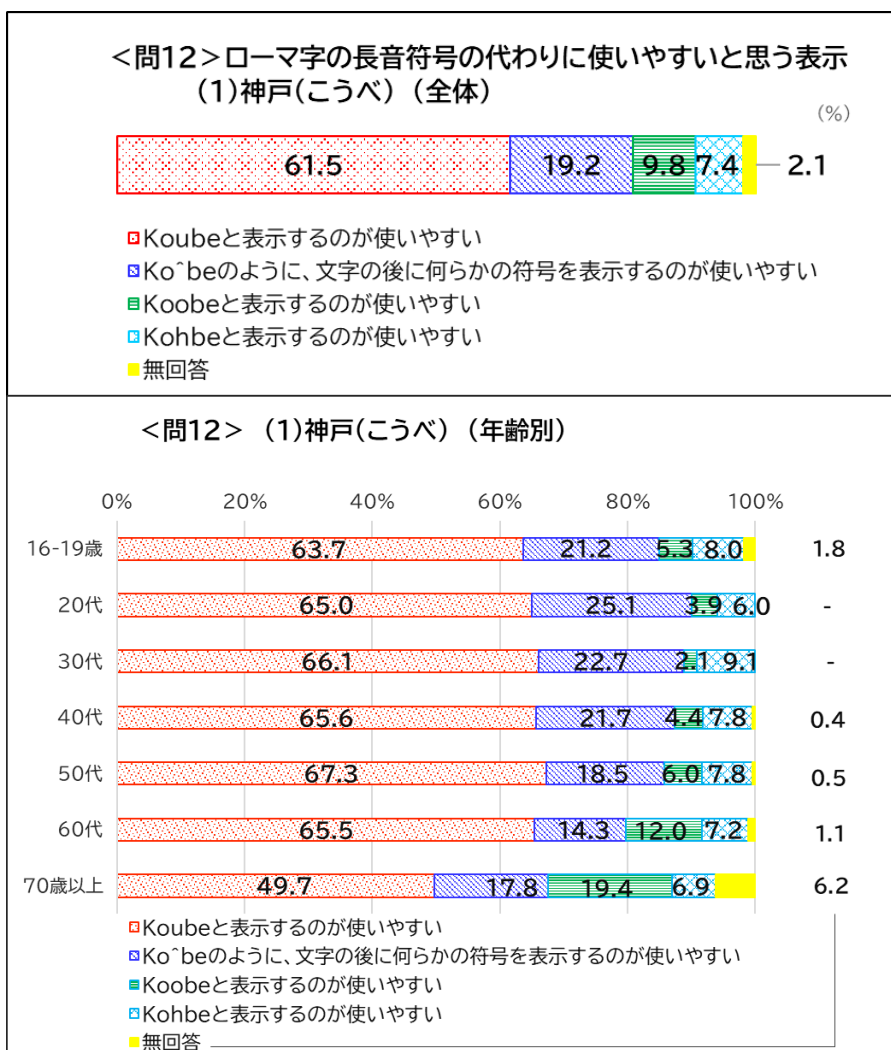
結果はそれぞれ以下のグラフのとおり。

(1) 神戸 (こうべ)

「Koube と表示するのが使いやすい」の割合が61.5%と最も高く、次いで「Kô`beのように、文字の後に何らかの符号を表示するのが使いやすい」の割合が19.2%、「Koobe と表示するのが使いやすい」が9.8%、「Kohbe と表示するのが使いやすい」が7.4%となっている。

年齢別に見ると、「Koube と表示するのが使いやすい」は、70歳以上が49.7%と、ほかの年齢層より低くなっている。

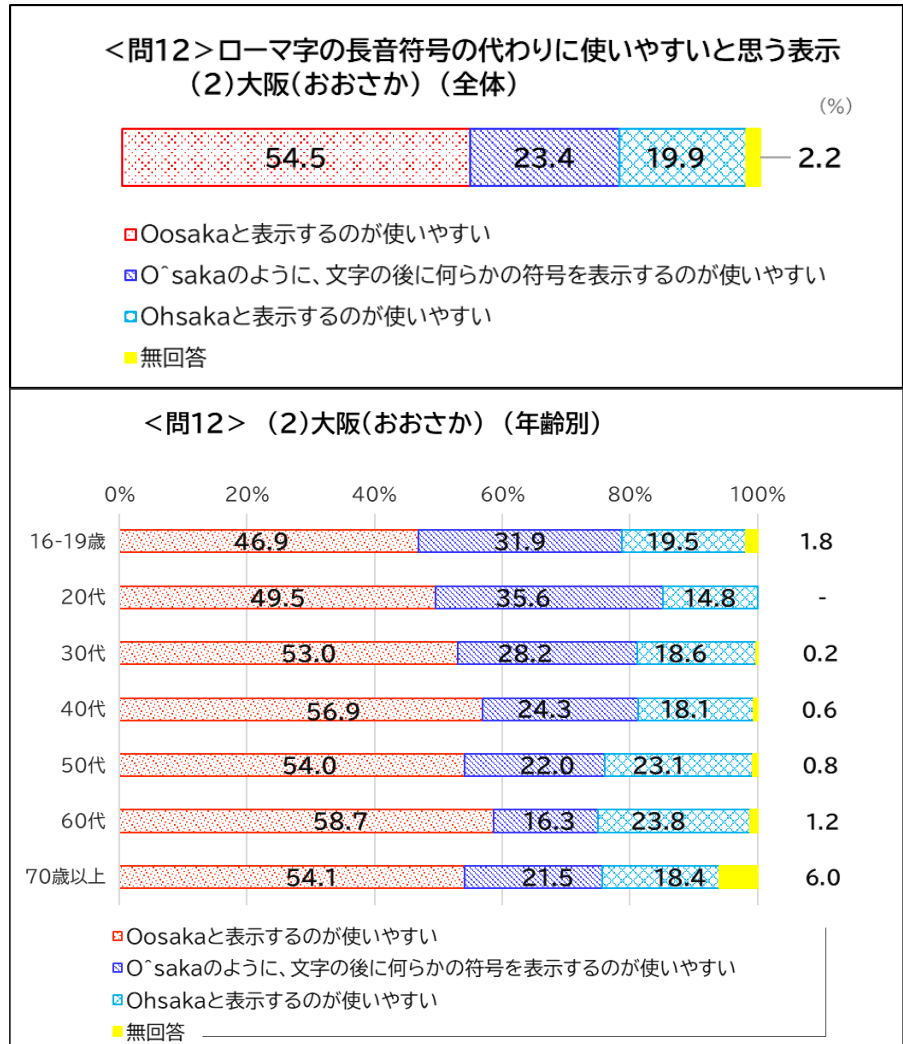
「Koobe と表示するのが使いやすい」は、60代以上が1割台と、ほかの年齢層より高くなっている。



(2) 大阪(おおさか)

「Oosaka と表示するのが使いやすい」の割合が 54.5%と最も高く、次いで「O`saka のように、文字の後に何らかの符号を表示するのが使いやすい」の割合が 23.4%、「Ohsaka と表示するのが使いやすい」が 19.9%となっている。

年齢別に見ると、「O`saka のように、文字の後に何らかの符号を表示するのが使いやすい」は、30代以下が2割台後半から3割台と、ほかの年齢層より高くなっている。



IV 言葉遣いに対する印象や慣用句等の理解

<問13> 使うことがある言葉か（「推し」「盛る」等を使うことがあるか）（* p.52）

— 「引く」は「使うことがある」が7割 —

〔問13：質問〕

あなたは、ここに挙げた（1）～（5）の下線部分の言い方を使うことがありますか。（一つずつ回答）

- （1）「冗談などがつまらない」といった意味で、「寒い」と言う
- （2）「より良く見せようとする」といった意味で、「盛る」と言う
- （3）「異様だと感じてあきれられる」といった意味で、「引く」と言う
- （4）「どうしようもなくなった」といった意味で、「詰んだ」と言う
- （5）「気に入って応援している人や物」といった意味で、「推し」と言う

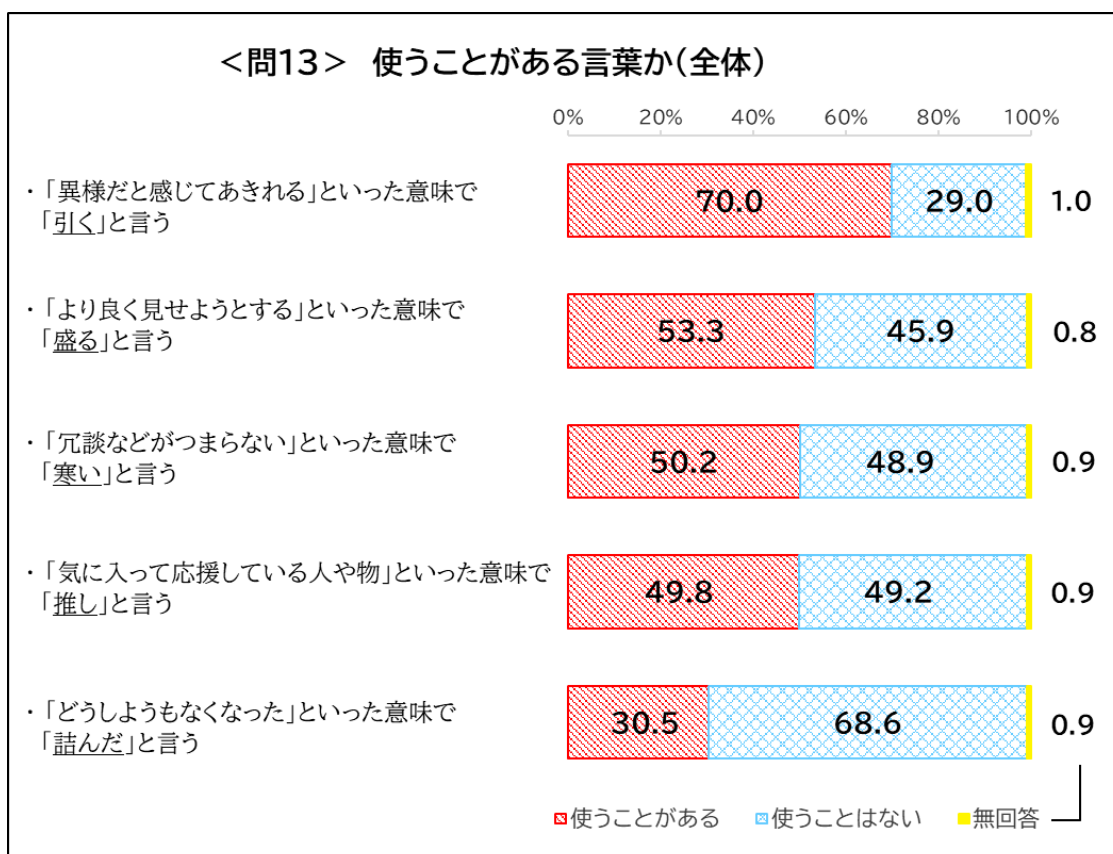
※ 調査した五つの言葉は、既存の言葉を使った短い言い方で、新しい意味や使い方が辞書に記載されてきたものを取り上げた。

〔問13：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。

下線部の言い方を「使うことがある」と回答した人の割合は、「引く」が70.0%、「盛る」が53.3%、「寒い」が50.2%、「推し」が49.8%、「詰んだ」が30.5%となっている。

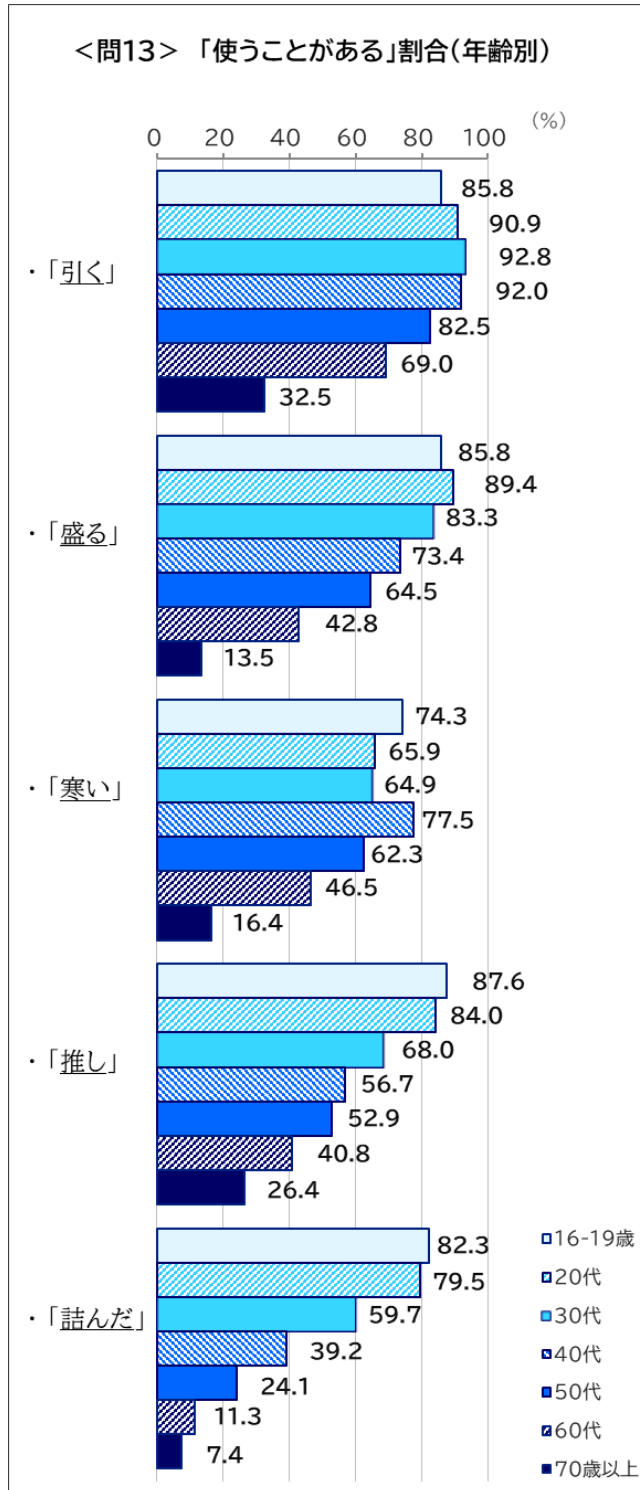
一方、「使うことはない」の割合は、「詰んだ」が68.6%、「推し」が49.2%、「寒い」が48.9%、「盛る」が45.9%、「引く」が29.0%となっている。



〔 問 13：年齢別の結果 〕

年齢別に「使うことがある」を選択した人の割合を見ると、次のグラフのとおり。

どの言い方においても、60代以上では、「使うことがある」を選択した人の割合が、ほかの年齢層より低い傾向にある。また、「押し」「詰んだ」は、年齢が上がるに従って割合が低くなっている。



<問14> 気になる言葉か（「推し」「盛る」等が気になるか）（* p.56）

— 「引く」「推し」「盛る」は「気にならない」が8割台 —

〔問14：質問〕

ここに挙げた（1）～（5）の下線部分の言い方をほかの人が使うのが気になりますか。それとも、気になりませんか。（一つずつ回答）

- （1）「冗談などがつまらない」といった意味で、「寒い」と言う
- （2）「より良く見せようとする」といった意味で、「盛る」と言う
- （3）「異様だと感じてあきれれる」といった意味で、「引く」と言う
- （4）「どうしようもなくなった」といった意味で、「詰んだ」と言う
- （5）「気に入って応援している人や物」といった意味で、「推し」と言う

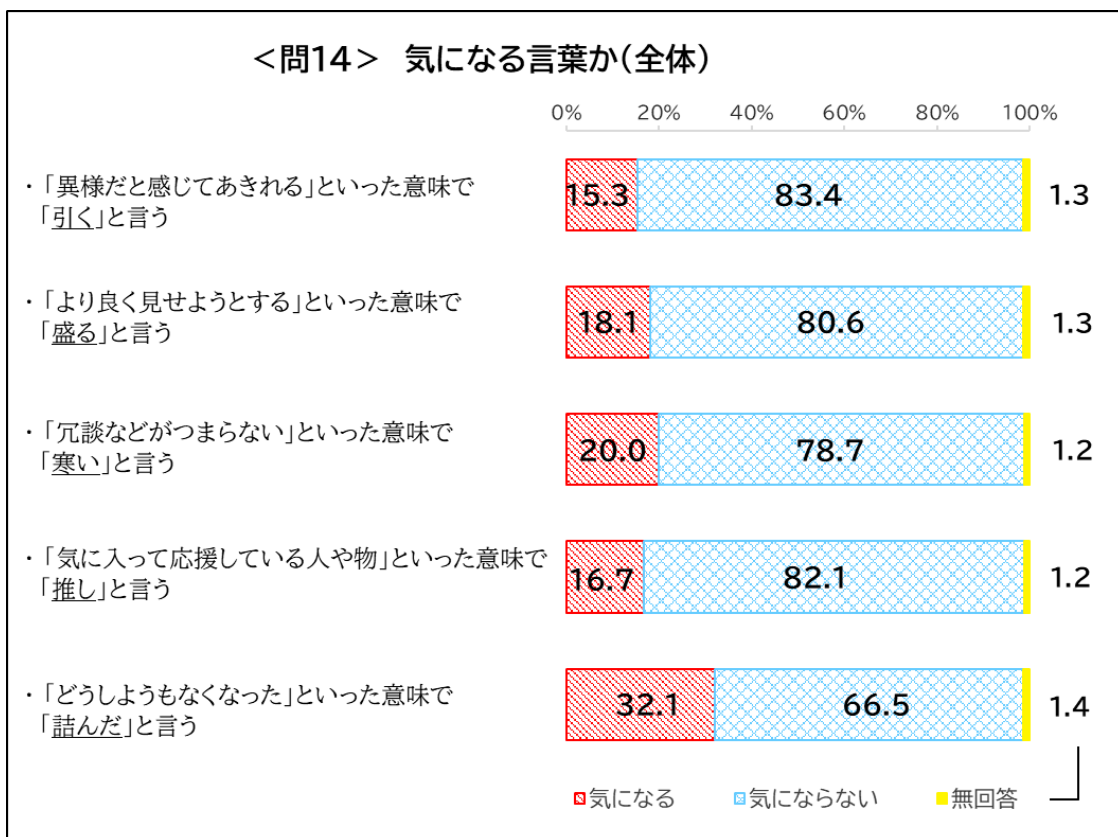
※ 調査した五つの言葉は、既存の言葉を使った短い言い方で、新しい意味や使い方が辞書に記載されてきたものを取り上げた。

〔問14：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。（並び順は問13に合わせている。）

下線部の言い方を「気にならない」と回答した人の割合は、「引く」が83.4%、「推し」が82.1%、「盛る」が80.6%、「寒い」が78.7%、「詰んだ」が66.5%となっている。

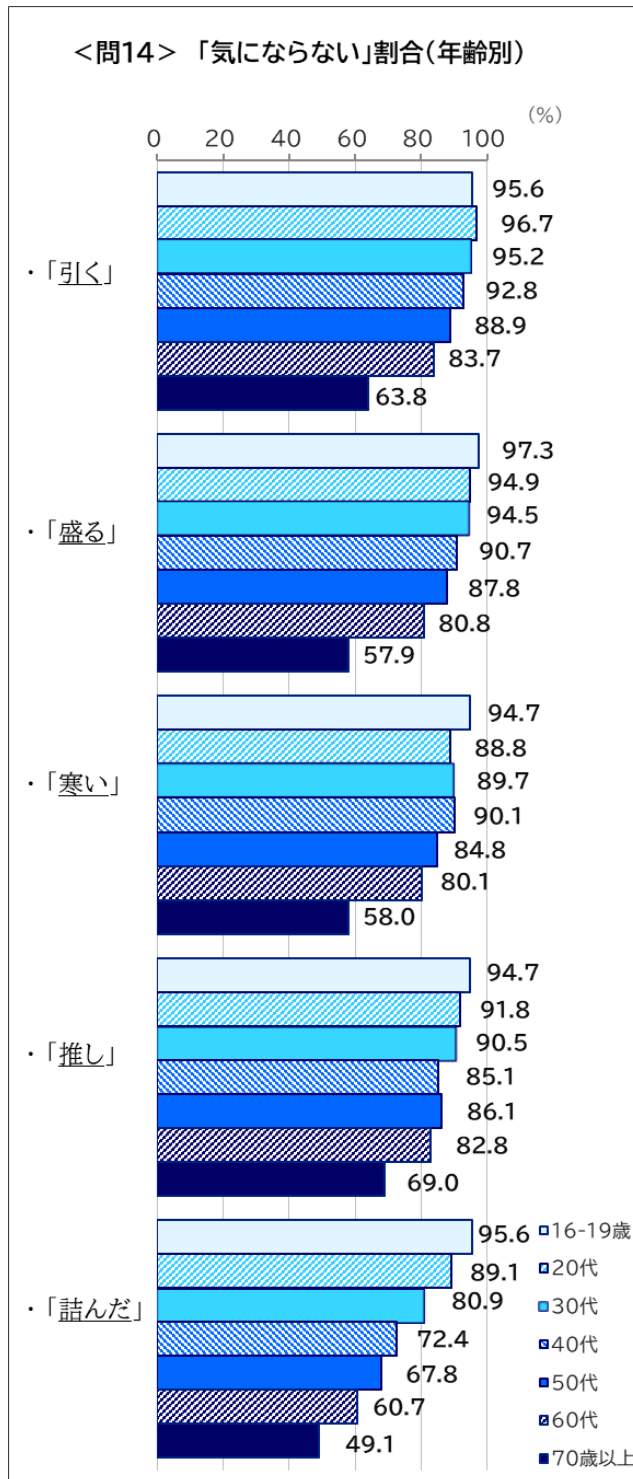
一方、「気になる」の割合は、「詰んだ」が32.1%、「寒い」が20.0%、「盛る」が18.1%、「推し」が16.7%、「引く」が15.3%となっている。



〔 問 14：年齢別の結果 〕

年齢別に「気にならない」を選択した人の割合を見ると、次のグラフのとおり。（並び順は問 13 に合わせている。）

どの言い方においても、年齢が上がるに従って「気にならない」を選択した人の割合が低くなる傾向にあり、特に 70 歳以上で、ほかの年齢層より低くなる傾向にある。



〔 問 14：問 13「使うことがある言葉か」との比較 〕

全体の結果において、問 13「使うことがある言葉か」で「使うことがある」を選択した人の割合が高い言葉ほど、問 14「気になる言葉か」で「気にならない」を選択した人の割合が高くなる傾向にある。また、どの言葉も、「使うことがある」の割合より「気にならない」の割合の方が高くなっている。

年齢別の結果においても同様に、問 13 で「使うことがある」の割合が高い年齢層ほど、問 14 で「気にならない」の割合が高くなる傾向が見られる。

<問 15> 「涼しい顔をする」「^{じくじ}忸怩たる思い」等の言葉は、どちらの意味だと思うか

(* p.60)

— 「涼しい顔をする」「^{じくじ}忸怩たる思い」「雨模様」「号泣する」は、
本来の意味とされてきたものとは異なる方が多く選択されている —

〔 問 15 : 質問 〕

ここに挙げた (1) から (5) の言葉は、それぞれ (ア) と (イ) のどちらだと思いますか。
(一つずつ回答)

- (1) 涼しい顔をする (2) ^{じくじ}忸怩たる思い (3) 情けは人のためならず
(4) 雨模様 (5) 号泣する

〔 問 15 : 全体・(参考) 過去の調査との比較 〕

結果は下の表のとおり。なお、辞書等で主に本来の意味とされてきたものを太字で記した。

今回尋ねた五つの語句のうち、(1)「涼しい顔をする」、(2)「^{じくじ}忸怩たる思い」、(4)「雨模様」、(5)「号泣する」は、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる方が多く選択されるという結果となっている。また、(3)「情けは人のためならず」は、辞書等で本来の意味とされてきたものと、そうでないものとの割合の差が小さかった。

調査方法が変わったため、今回の調査結果との比較には注意が必要であるが、過去の調査結果も参考値として表に示す。

〈 問 15 どちらの意味だと思うか 〉 (数字は%)

	涼しい顔をする	令和4年度
(1)	(ア) 大変な状況でも平気そうにする	61.0
	(イ) 関係があるのに知らんぷりする	22.9
	(ア) と (イ) の両方	13.5
	(ア)、(イ) とは、全く別の意味	1.0
	無回答	1.6
	^{じくじ}忸怩たる思い	令和4年度
(2)	(ア) 残念で、もどかしい思い	52.6
	(イ) 恥じ入るような思い	33.5
	(ア) と (イ) の両方	8.3
	(ア)、(イ) とは、全く別の意味	1.9
	無回答	3.7

〈 問 15 どちらの意味だと思うか（続き） 〉（数字は％）

		令和 4年 度	平成 22年 度	平成 12年 度
(3)	情けは人のためならず			
	(ア) 人に情けを掛けておくと、巡り巡って結局は自分のためになる	46.2	45.8	47.2
	(イ) 人に情けを掛けて助けることは、結局はその人のためにならない	47.7	45.7	48.7
	(ア) と (イ) の両方	3.9	4.0	*
	(ア)、(イ) とは、全く別の意味	0.6	1.9	*
	無回答	1.6		
	分からない		2.6	4.1
(4)	雨模様 例文:外は雨模様だ	令和 4年 度	平成 22年 度	平成 15年 度
	(ア) 雨が降りそうな様子	37.1	43.3	38.0
	(イ) 小雨が降ったりやんだりしている様子	49.4	47.5	45.2
	(ア) と (イ) の両方	8.4	4.8	9.4
	(ア)、(イ) とは、全く別の意味	3.5	3.2	6.3
	無回答	1.5		
	分からない		1.2	1.1
(5)	号泣する 例文:悲しみの余り、号泣した	令和 4年 度	平成 22年 度	
	(ア) 「大声を上げて泣く」という意味	30.3	34.1	
	(イ) 「激しく泣く」という意味	42.1	48.3	
	(ア) と (イ) の両方	25.8	14.8	
	(ア)、(イ) とは、全く別の意味	0.4	1.0	
	無回答	1.5		
	分からない		1.8	

* 調査方法の変更のため、令和元年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。

* (3) の平成12年度調査では、「(ア) と (イ) の両方」「(ア)、(イ) とは、全く別の意味」は、選択肢になかった。

〔 問 15 : 年齢別の結果 〕

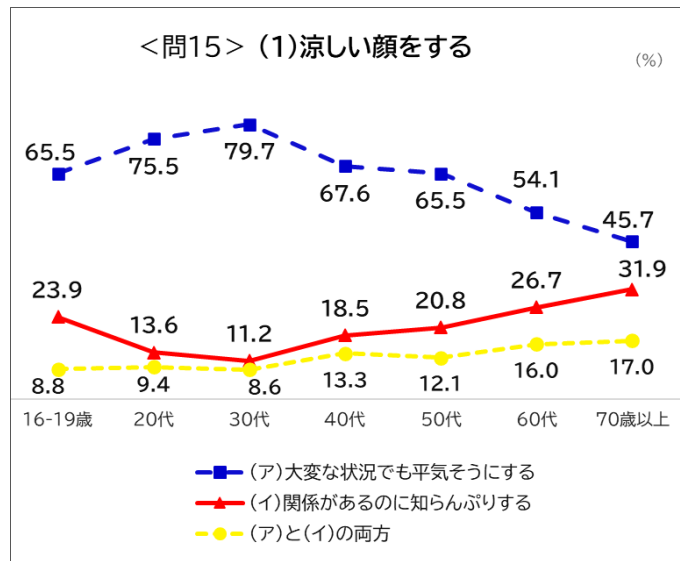
(1) ~ (5) について年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

※ 辞書等で主に本来の意味とされてきたものを実線 (—▲) で表示した。

(1) 涼しい顔をする

全ての年齢層で、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる (ア) 「大変な状況でも平気そうにする」を選択した人の割合が、本来の意味とされてきた (イ) 「関係があるのに知らんぷりする」を上回っている。

中でも、50代以下では (ア) を選択した人の割合と (イ) を選択した人との割合に 40 ポイント以上の差がある。

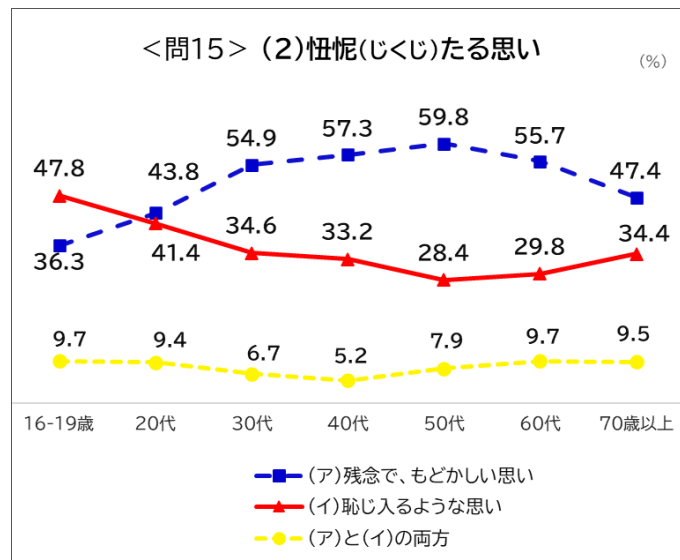


(2) 忸怩たる思い

30代以上では、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる (ア) 「残念で、もどかしい思い」を選択した人の割合が、本来の意味とされてきた (イ) 「恥じ入るような思い」を上回っている。

中でも、50代では (ア) を選択した人の割合と (イ) を選択した人との割合に 30 ポイント以上の差がある。

一方、16~19歳では、本来の意味とされてきた (イ) 「恥じ入るような思い」の方が高くなっている。

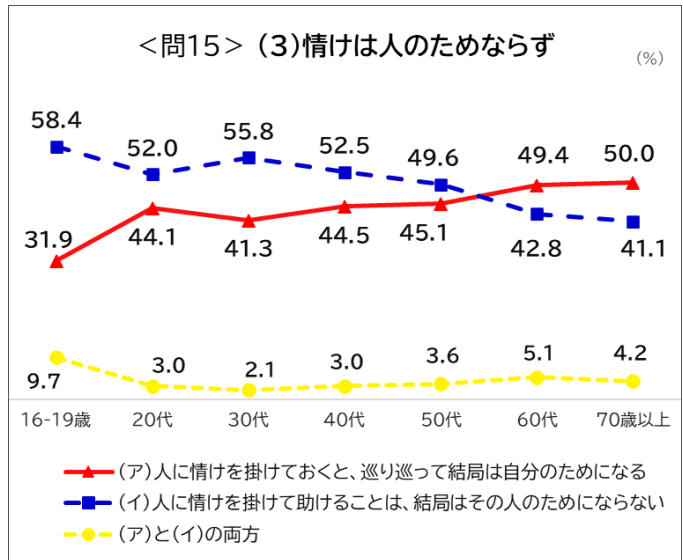


(3) 情けは人のためならず

50代以下では、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる(イ)「人に情けを掛けて助けることは、結局はその人のためにならない」を選択した人の割合が、本来の意味とされてきた(ア)「人に情けを掛けておくと、巡り巡って結局は自分のためになる」を上回っている。

中でも、16~19歳では(ア)を選択した人の割合と(イ)を選択した人との割合に20ポイント以上の差がある。

一方、60代以上では、本来の意味とされてきた(ア)「人に情けを掛けておくと、巡り巡って結局は自分のためになる」の方が高くなっている。

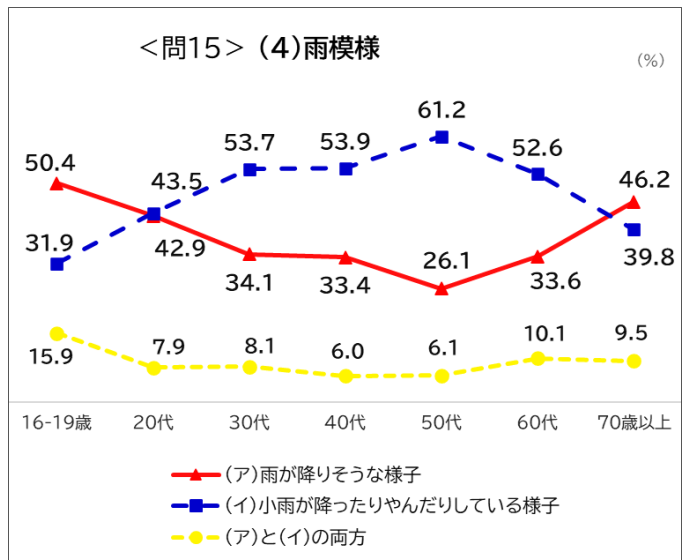


(4) 雨模様

30代から60代では、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる(イ)「小雨が降ったりやんだりしている様子」を選択した人の割合が、本来の意味とされてきた(ア)「雨が降りそうな様子」を上回っている。

中でも、50代では(ア)を選択した人の割合と(イ)を選択した人との割合に30ポイント以上の差がある。

一方、16~19歳と70歳以上では、本来の意味とされてきた(ア)「雨が降りそうな様子」の方が高くなっている。



(5) 号泣する

全ての年齢層で、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる(イ)「激しく泣く」という意味を選択した人の割合が、本来の意味とされてきた(ア)「大声を上げて泣く」という意味を上回っている。

また、60代以下では「(ア)と(イ)の両方」を選択した人の割合が2割台後半から3割台となっている。

